

茨城県教育財団文化財調査報告第463集

鉾田市

天神道 B 遺跡

主要地方道大洗友部線バイパス整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和4年1月

茨城県鉾田工事事務所
公益財団法人茨城県教育財団

鉾田市

てんじんみちびー
天神道 B 遺跡

主要地方道大洗友部線バイパス整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和4年1月

茨城県鉾田工事事務所
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和 52 年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県鉢田工事事務所による主要地方道大洗友部線バイパス整備事業に伴って実施した、鉢田市天神道 B 遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、古墳時代から江戸時代の遺構を確認し、当地が中・近世において地域の要衝地であった一面が明らかになりました。本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県鉢田工事事務所に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、鉢田市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和 4 年 1 月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 柴原 宏一

例　　言

- 1 本書は、茨城県鉾田工事事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財團が令和2年度に発掘調査を実施した。茨城県鉾田市箕輪1,691番地ほかに所在する天神道B遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調査 令和3年1月1日～3月31日
整理 令和3年9月1日～11月30日
- 3 発掘調査は、調査課長酒井雄一のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 櫻井 実介
調　　査　　員 平石 尚和（関東文化財振興会株式会社）
調　　査　　員 河野 一也（関東文化財振興会株式会社）
副　　調　　査　　員 西川 忠春（関東文化財振興会株式会社）
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長小林和彦のもと、以下の者が担当した。
調　　査　　員 平石 尚和（関東文化財振興会株式会社）
顧　　問　　川井 正一（関東文化財振興会株式会社）
- 5 本書の執筆分担は、下記のとおりである。
平石 尚和 第1・3・4章
川井 正一 第2章
- 6 調査及び本報告書の作成にあたり、陶磁器については桜川市教育委員会宇留野主悦氏に御教示を賜った。
- 7 当遺跡の出土遺物及び実測図・写真等は、茨城県埋蔵文化財センターにて保管されている

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に順拡し、X = + 29.800 m, Y = + 61.720 mの交点を基準点(A 1 a1)とした。なお、この原点は、世界測地系(測地成果2011)による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、大調査区を東西・南北に各々10等分して4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C…、西から東へ1, 2, 3…とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa, b, c…j、西から東へ1, 2, 3…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2 実測図、遺構・遺物一覧表で使用した記号は次のとおりである。

遺構	HT - 方形竪穴遺構	P - ピット	PG - ピット群	SA - 柱穴列	SB - 掘立柱建物跡
	SD - 溝跡	SF - 道路跡	SH - 整地面	SI - 竪穴建物跡	SK - 土坑
土層解説	ローム - ロームブロック	焼土 - 焼土ブロック	粘土 - 粘土ブロック	黒色土 - 黒色土ブロック	
	含有量	A - 多量	B - 中量	C - 少量	D - 微量
	粘性・締まり	A - 強い	B - 普通	C - 弱い	O' - 極めて
	サイズ	大・中・小・粒	炭化物	材・物・粒	で表記した。

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1、各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・貝層範囲・施釉陶器		炉・火床面
	窓部材・粘土範囲		柱痕跡・柱あたり
●土器	○土製品	□石器・石製品	△金属製品

4 土層観察と遺物における色調の判定は、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

5 遺構・遺物一覧の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm, cm, gで示した。なお、現存値は()を、推定値は〔 〕を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構ごとの通し番号とし、本文、挿図、表、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物一覧の備考欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・窓を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E)。

7 今回の報告分で、整理の段階で遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

変更	SK-9 → HT-3	P-42・60・69・70・78・79 → SB-1
	P-1・26・43・45・48・49・61・82 → SB-2	P-3・5・76・80 → SB-3
	P-24・31・32・33・36	SA-1P-7 → SA-2 SK-1 → 第1号火葬施設 SK-25 → 第2号火葬施設
	SK-36 → 第3号火葬施設	
欠番	SK-1・9・25・36	P-1・3・5・24・26・31・32・33・36・42・43・45・48・49・60・61・68・69・70・76・78・79・80・82

8 抄録の遺跡番号は、茨城県遺跡地図2015年の改訂により、08234-401441とする。

目 次

序		1
例 言		3
凡 例		3
目 次		4
天神道B道路の概要		1
第1章 調査経緯		3
第1節 調査に至る経緯		3
第2節 調査経過		3
第2章 位置と環境		4
第1節 位置と地形		4
第2節 歴史的環境		4
第3章 調査の成果		12
第1節 調査の概要		12
第2節 基本層序		12
第3節 道構と遺物		14
1 古墳時代の道構と遺物		14
豊穴建物跡		14
2 室町時代の道構と遺物		19
(1) 捩立柱建物跡		19
(2) 方形豊穴道構		22
(3) 地下式坑		28
(4) 火葬施設		31
(5) 溝跡		33
(6) 柱穴列		37
3 江戸時代の道構と遺物		40
(1) 道路跡		40
(2) 整地道構		43
(3) 土坑		43
4 その他の道構と遺物		44
(1) 土坑		44
(2) 溝跡		53
(3) ピット群		54
5 道構外出土遺物		58
第4章 総 括		59
写真図版		PL. 1 ~ PL10
抄 錄		

挿 図 目 次

第 1 図 天神道 B 道路周辺道路分布図	7	第 15 図 第 2 号方形豊穴道構・出土遺物実測図	24
第 2 図 天神道 B 道路調査区設定図	10	第 16 図 第 3 号方形豊穴道構・出土遺物実測図	25
第 3 図 道構全体系図	11	第 17 図 第 4 号方形豊穴道構実測図	27
第 4 図 基本上層図	13	第 18 図 第 4 号方形豊穴道構・出土遺物実測図	28
第 5 図 第 1 号豊穴建物跡実測図 (1)	14	第 19 図 第 1 号地下式坑実測図	28
第 6 図 第 1 号豊穴建物跡実測図 (2)	15	第 20 図 第 2 号地下式坑・出土遺物実測図	29
第 7 図 第 1 号豊穴建物跡掘方実測図	16	第 21 図 第 3・4 号地下式坑実測図	31
第 8 図 第 1 号豊穴建物跡出土遺物実測図 (1)	17	第 22 図 第 1 号火葬施設実測図	32
第 9 国 第 1 号豊穴建物跡出土遺物実測図 (2)	18	第 23 国 第 2 号火葬施設実測図	32
第 10 国 第 1 分掘立柱建物跡実測図	19	第 24 国 第 3 号火葬施設実測図	33
第 11 国 第 2 号掘立柱建物跡実測図	20	第 25 国 第 2 号溝跡実測図	34
第 12 国 第 3 号掘立柱建物跡実測図	21	第 26 国 第 2 号溝跡出土遺物実測図	35
第 13 国 第 1 号方形豊穴道構実測図	22	第 27 国 第 3 号溝跡実測図	35
第 14 国 第 1 号方形豊穴道構・出土遺物実測図	23	第 28 国 第 3 号溝跡出土遺物実測図	36

第 29 図	第 4 号溝跡・出土遺物実測図	37
第 30 図	第 1 号柱穴実測図	38
第 31 図	第 2 号柱穴実測図	39
第 32 図	第 1 号道路跡・第 1 号整地遺構実測図 (1)	40
第 33 図	第 1 号道路跡・第 1 号整地遺構実測図 (2)	41
第 34 図	第 1 号道路跡・第 1 号整地遺構出土遺物実測図	42
第 35 図	第 3 号土坑実測図	43
第 36 図	第 5 号土坑実測図	44
第 37 図	第 11 号土坑実測図	45
第 38 図	第 12 号土坑実測図	45
第 39 図	第 14 号土坑実測図	46
第 40 図	第 15 号土坑実測図	46
第 41 図	第 22 号土坑実測図	47
第 42 図	第 35 号土坑実測図	47
第 43 図	時期不明土坑・出土遺物実測図	48
第 44 図	時期不明土坑実測図 (1)	49
第 45 図	時期不明土坑実測図 (2)	50
第 46 図	時期不明土坑実測図 (3)	51
第 47 図	時期不明土坑実測図 (4)	52
第 48 図	第 1・5 号溝跡実測図	54
第 49 図	第 1 号ビット群実測図 (1)	55
第 50 図	第 1 号ビット群実測図 (2)	56
第 51 図	第 2 号ビット群実測図 (1)	57
第 52 図	第 2 号ビット群実測図 (2)	58
第 53 図	遺構外出土遺物実測図	58
第 54 図	天神道 B 道跡地下式坑	60
第 55 図	天神道 B 道跡土坑 (粘土貼) 配置図	60

挿表目次

第 1 表	天神道 B 道跡周辺遺跡一覧 (1)	8
第 2 表	天神道 B 道跡周辺遺跡一覧 (2)	9
第 3 表	第 1 号堅穴建物跡出土遺物一覧 (1)	16
第 4 表	第 1 号堅穴建物跡出土遺物一覧 (2)	18
第 5 表	室町時代掘立柱建物跡一覧	22
第 6 表	第 1 号方形堅穴遺構出土遺物一覧	23
第 7 表	第 2 号方形堅穴遺構出土遺物一覧	25
第 8 表	第 3 号方形堅穴遺構出土遺物一覧	26
第 9 表	第 4 号方形堅穴遺構出土遺物一覧	26
第 10 表	室町時代方形容堅穴遺構一覧	28
第 11 表	第 2 号地下式坑出土遺物一覧	30
第 12 表	室町時代地下式坑一覧	31
第 13 表	室町時代火葬施設一覧	33
第 14 表	第 2 号溝跡出土遺物一覧	33
第 15 表	第 3 号溝跡出土遺物一覧	36
第 16 表	第 4 号溝跡出土遺物一覧	37
第 17 表	室町時代溝跡一覧	37
第 18 表	室町時代柱穴列一覧	39
第 19 表	第 1 号道路跡出土遺物一覧	42
第 20 表	第 1 号整地面出土遺物一覧	43
第 21 表	時期不明土坑 (粘土貼土坑) 一覧	48
第 22 表	第 2 号土坑跡出土遺物一覧	48
第 23 表	時期不明土坑一覧	53
第 24 表	時期不明溝跡一覧	54
第 25 表	第 1 号ビット群計測表	54
第 26 表	第 2 号ビット群計測表	56
第 27 表	遺構外出土遺物一覧	58

写真図版目次

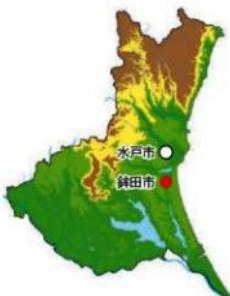
PL 1	調査区(波景(西から))	
	調査区全景(鉛直)	
PL 2	第 1 号堅穴建物跡	
	第 1 号堅穴建物跡出土状況	
	第 1 号掘立柱建物跡	
	第 2 号掘立柱建物跡	
	第 3 号掘立柱建物跡	
	第 2 号掘立柱建物跡 P 6 土層断面	
	第 3 号掘立柱建物跡 P 4 土層断面	
	第 1 号方形堅穴遺構	
PL 3	第 2 号方形堅穴遺構	
	第 3 号方形堅穴遺構出土状況	
	第 4 号方形堅穴遺構 1 次硬化面	
	第 4 号方形堅穴遺構	
	第 4 号方形堅穴遺構構造出土状況	
	第 1 号地下式坑	
	第 1 号地下式坑遺物出土状況	
	第 2 号地下式坑	
PL 4	第 3 号地下式坑	
	第 4 号地下式坑	
	第 1 号火葬施設土層断面	
	第 1 号火葬施設	
	第 2 号火葬施設土層断面	
	第 3 号火葬施設土層断面	
	第 5 号土坑	
	第 5 号土坑土層断面	
PL 5	第 11号土坑	
	第 12号土坑	
	第 14号土坑	
	第 15号土坑	
	第 22号土坑	
	第 35号土坑	
	第 2号溝跡	
	第 3号溝跡	
PL 6	第 3号溝跡遺物出土状況	
	第 4号溝跡遺物出土状況	
	第 1号追跡路-第 1号整地面確認状況	
	第 1号道路跡土層断面(南面)	
	第 1号道路跡土層断面(北面)	
	第 1号道路跡遺物出土状況	
	第 1号道路跡-第 1号整地遺構土層断面	
	第 1号道路跡-第 1号整地遺構削除土層断面	
PL 7	第 1号整地面遺物出土状況	
	第 3号土坑土層断面	
	第 40号土坑	
	第 1号ビット群	
	第 1号溝跡	
	第 5号溝跡	
	西区完掘	
	東区完掘	
PL 8	第 1号堅穴建物跡出土遺物	
PL 9	第 1号堅穴建物跡、第 1~4 号方形堅穴遺構、第 2 号地下式坑、第 2 号溝跡出土遺物	
PL10	第 3~4 号溝跡、第 1号道路跡、第 1号整地遺構、第 2~3 号土坑、遺構外出土遺物	

てんじんみちびー 天神道B遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

天神道B遺跡は、鉢田市の北部、涸沼南部の標高12～15mの台地上に立地しています。

主要地方道大洗友部バイパス整備事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、公益財団法人茨城県教育財団が茨城県教育委員会の定める「財団法人茨城県教育財団の発掘調査における民間発掘調査組織の導入に関する指針」に基づき、民間発掘調査組織を組み込み、令和3年に1,593m²について発掘調査を行いました。



調査の内容

今回の調査では、古墳時代の竪穴建物跡1棟、室町時代の掘立柱建物跡3棟、方形竪穴遺構4基、火葬施設3基、粘土貼土坑7基、溝跡3条、柱穴列2条、江戸時代以降の道路跡1条、整地構造1か所、土坑1基等を確認しました。



遺跡全景（南から）



第1号竪穴建物跡の遺物出土状況



第1・2号掘立柱建物跡



第1号竪穴建物跡から出土した土師器



第1号方形竪穴遺構から出土した陶器

調査の成果

調査によって、古墳・室町・江戸時代の遺構を確認しました。古墳時代の竪穴建物跡1棟しか確認できなかったので、どのような集落であったかは不明です。室町時代には、掘立柱建物跡や火葬施設の存在から、作業域か墓域として利用されていたと推測されます。江戸時代には道路跡や整地面を確認したことや遺跡名にもあるように、地域の人々が天満宮信仰のため利用していたことがわかりました。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

令和元年5月20日、茨城県鉢田工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、大洗友部線バイパス整備事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及び取り扱いについて照会した。これを受けた茨城県教育委員会は令和元年6月13日に現地踏査を、令和元年12月25日、令和2年2月10・13日、4月8・9・21・22日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。令和2年5月27日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県鉢田工事事務所長あてに、事業地内に天神道B遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

令和2年8月11日、茨城県鉢田工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。

令和2年8月13日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県鉢田工事事務所長あてに、現状保存が困難であることから記録保存のため発掘調査が必要であると決定し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。令和2年8月17日、茨城県鉢田工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、主要地方道大洗友部線バイパス整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。令和2年8月18日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県鉢田工事事務所長あてに、天神道B遺跡について発掘調査の範囲及び面積について回答し、併せて調査機関として公益財團法人茨城県教育財團を紹介した。

公益財團茨城県教育財團は、茨城県鉢田工事事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、茨城県教育委員会の定める「財團法人茨城県教育財團の発掘調査における民間発掘調査組織の導入に関する指針」に基づき、民間発掘調査組織を取り組んで、令和3年1月1日から3月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

天神道B遺跡の調査は、令和3年1月1日から3月31日までの3か月間にわたって実施した。以下の概要を表で記載する。

工程\期間	1月	2月	3月
調査準備 表土構造確認			
遺構調査			
遺物洗浄 注写真整理			
補足調査 収取			

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

天神道B遺跡は、茨城県鉢田市箕輪字天神道1691番地ほかに所在している。平成の大合併前は鹿島郡旭村域である。

鉢田市は、茨城県の東部に位置し、東は太平洋の鹿島灘に沿い、北は涸沼、南は北浦に接し、その内陸部の大部分は平坦な鹿島台地である。鹿島台地は、太平洋側で約40m、内陸部で約30mの標高を示し、いわゆる関東造盆地運動によって西側へ向かって高さを減じている。台地は、市の中央部から北流して涸沼へ注ぐ大谷川、南流して北浦へ注ぐ鉢田川（七瀬川）やその支流によって形成された支谷が樹脂状に入り込み、複雑な地形を呈している。

地質的には、鹿島台地は第四紀完新世に堆積し、成田層と呼ばれる砂層が基盤となり、その上部に粘土・砂・砂礫からなる見和層、火山灰質粘土層である常総粘土層、さらに関東ローム層が堆積している。ローム層は武藏野層、立川層に相当し、ローム層中に鹿沼輕石の層が堆積している。

遺跡は、城里町を源流として、南東流したのち北東流して那珂川に注ぐ涸沼川の中途に位置する涸沼に北面する鹿島台地の北端部に立地している。遺跡が立地する場所は、涸沼川によって形成された河岸段丘の中位段丘で、標高20mである。低地との比高は17mである。遺跡の調査前の現況は、山林及び畠である。

第2節 歴史的環境

天神道B遺跡は鉢田市の北端部、前述したように旧旭村に位置している。旧旭村域においては440か所にのぼる遺跡が確認されており¹⁾、1km四方における遺跡数が814か所で、県域における遺跡の分布密度が非常に高い地域である。因みに旧鉢田町における1km四方における遺跡数は、282か所、北側に隣接している東茨城郡大洗町においては35か所で、何れも分布密度が高い地域である。

ここでは、当遺跡が鉢田市の北端部に位置し、北東部は大洗町、西部は茨城町に隣接し、北側も涸沼を挟んで茨城町と接していることから、当遺跡を中心とした半径5kmにおける遺跡の分布状況について述べる。

旧石器時代の遺跡としては、大谷川及びその支流域においてナイフ形石器や細石刃核が採集された前野遺跡²⁾（113）、小和峰A遺跡、川合道B遺跡が確認されているにすぎない。

縄文時代の遺跡は、旧旭村域においては242か所、茨城町域においては113か所、大洗町域においても多数確認されている。

草創期の遺跡は、大谷川流域に立地している明烏舞山遺跡（59）、沢尻飛沢遺跡（38）、日明田B遺跡（53）、前野遺跡、神田C遺跡（123）、権現峰遺跡などがみられる程度で、遺跡数は少ない。早・前期の遺跡としては、ふみのなき（11）、下太田遺跡（29）、明烏舞山遺跡、上釜飛沢B遺跡（39）、千葉遺跡（136）、茨城町金子立西遺跡などで概期の土器が採集されており、遺跡数がかなり増加している。前期は海進が最も進んだ時期で、現在の河川や低地部の奥まで海水が流入し、淡水が供給される流域では汽水域も存在していたことが推測され、食料としての魚介類の獲得に最良の地域であったとみられる。

次の中・後期の遺跡はさらに増加しており、涸沼川東岸のおんだし遺跡²⁾（26）、千天遺跡³⁾、大谷川西岸の

大平遺跡⁴⁾（127）では集落跡が確認されているほか、大貫落神南貝塚では貝塚4地点⁵⁾、大貫落神北貝塚では貝塚3地点⁶⁾がそれぞれ確認されており、貝類や海洋性の魚骨、漁労具などが出土しており、漁労を主体とする生活を営んでいたことを物語っている。

次の弥生時代では、中期の遺跡は潤沼川東岸の大洗町旧陣屋遺跡（120）、大谷川東岸の浜山B遺跡（67）が確認されているだけである。浜山B遺跡では、墓域と炉跡が確認されている⁷⁾。後期の遺跡は大幅に増加し、潤沼川東岸の大洗町では皿沼遺跡⁸⁾（12）、ヨナ川遺跡⁹⁾（21）、旧陣屋遺跡、南藤太郎遺跡¹⁰⁾（108）、千天遺跡、落神遺跡¹¹⁾、長峰遺跡¹²⁾で集落跡が確認されている。大谷川東岸では、北山遺跡¹³⁾（11）で集落跡が確認されているほか、明鳥舞山遺跡、日明田B遺跡、造谷遺跡（70）、上ノ台遺跡（82）など多数の遺跡が確認されており、この地域に稲作を基盤とした生活が可能になったことを物語っている。

次の古墳時代では、まず集落遺跡について概観する。潤沼川東岸では千天遺跡で前期、長峰遺跡、常福寺遺跡¹⁴⁾で前・後期、落神遺跡で前・中期、登城遺跡¹⁵⁾、ヨナ川遺跡で中・後期、おんだし遺跡で後期の集落跡が調査されている。大谷川東岸では、北山遺跡で後期の集落跡が調査されているほか、下太田遺跡、で前・中期、上太田遺跡、日明田B遺跡、小和峰A遺跡で前～後期、町田遺跡で前・後期、山ノ崎B遺跡（160）で前期の土器が採集されている。大谷川西岸では大平遺跡において後期の集落が調査されているほか、大谷川遺跡（4）で前・中・後期、仙神上A遺跡（74）で中期の遺跡が確認されている程度である。潤沼川南岸では大岑遺跡で前期の土器が採集されている程度である。

また、この時代は多数の古墳が築造されているが、前期古墳や大型の前方後円墳は未確認で、大半は小規模な後期の円墳である。そのうち大谷川東岸にある浜山古墳群（119）は、中期の方墳2基であることが確認されたが主体部は確認できなかった¹⁶⁾。そのほか、潤沼川東岸には神ノ下古墳、宮久保古墳、下宿古墳、椎木古墳（22）、大谷川東岸には下太田古墳群（32）、上ノ台古墳、梶又古墳群、町田古墳（152）など、大谷川西岸では、天神山古墳群（3）、和田台古墳（137）、田崎古墳群（81）などが確認されているが時期を特定できるものは少ない。そのうち天神山古墳群は、前方後円墳1基と円墳14基からなる古墳群とされている。天神山4号墳は前方後円墳で、埋葬施設が横穴式石室で、内部から直刀、鉄鎌、轡・雲珠・辻・鉢具などの馬具が出土したほか、墳丘から人物埴輪が出土しており、地域の有力な武人の墳墓であると想定されている¹⁷⁾。その他の多くの古墳は、小規模な円墳であることから有力農民の墳墓と考えられている。

次の奈良時代に入ると、現鉾市は南西部が行方郡、太平洋岸の大半の地域は鹿島郡に属し、当遺跡が存在する大谷川流域及び潤沼川東岸の大洗町成田町・神山町域は、鹿島郡大屋郷に比定されている¹⁸⁾。この大屋郷に比定されている地域における律令期の奈良・平安時代の遺跡は、千天遺跡・ヨナ川遺跡で奈良時代、皿沼遺跡・北山遺跡・大平遺跡で奈良・平安時代、おんだし遺跡で平安時代の集落跡が調査されている。その中で千天遺跡から「大屋厨」と墨書きされた土器が出土しており¹⁹⁾、当地域が大屋郷であったことを裏付けている。そのほか下太田遺跡・上太田遺跡・七日原A遺跡（50）、高岡前遺跡・出山遺跡など多くの遺跡で奈良・平安時代の土器が採集されており、奈良時代の遺跡が河川の周辺に分布しているのに対して、平安時代の遺跡は数が増加して支谷の奥まで分布するようになる。蟹田永代私財法などにより、耕地の開墾が進行し人口が増加したことによるものとみられる。

鎌倉時代以降の中世に入ってからの当地域に関する資料は少ないが、常陸平氏流の鹿島成幹の孫家系である宮崎氏の統治下にあった時期がある。室町時代以降は、畠田氏、江戸氏そして佐竹氏一族の東義久の統治下に入ったが、佐竹氏が出生國へ国替えされたため、佐竹氏一族の支配は短期間で終わる。江戸時代には、大部分が旗本領となっている。

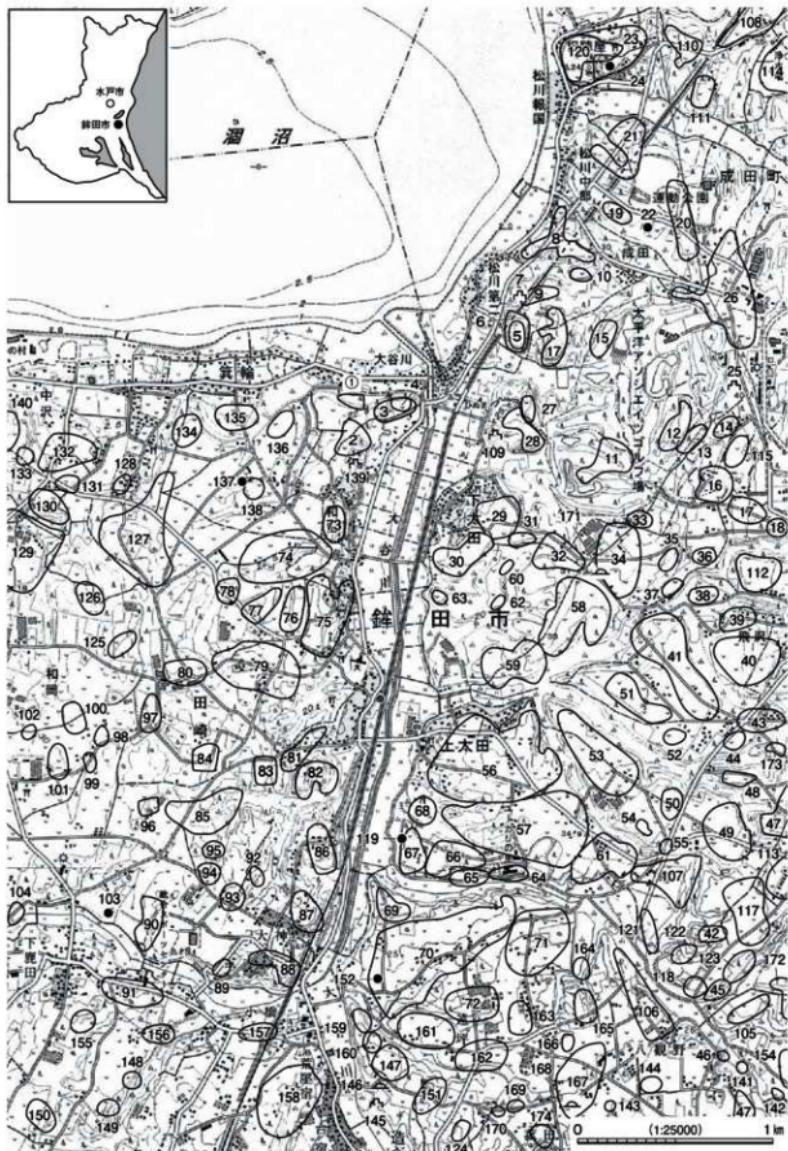
この時代の遺跡には城館跡があり、大洗町の大館跡（6）、小館跡（7）や下太田館跡（109）、造谷館跡（145）が確認されている。その他、新田前塚、館久保塚（146）、孤田経塚（168）や、中・近世の遺物が採集できる集落跡とみられる遺跡が多数存在するが、詳細は不明である。

註

- 1) 川井正一ほか「原始古代」「旭村の歴史 史料編」旭村教育委員会 2000年3月
- 2) 井上義安ほか「茨城県おんだし遺跡」「大洗文化財調査報告書」第5集 おんだし遺跡調査団 1975年5月
- 3) a 田村健二ほか「千天 鹿島線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書」大洗地区遺跡発掘調査会 1980年3月
b 寺内久永「千天道路－主要地方道大洗友部線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書」茨城県教育財团文化財調査報告 第384集 2014年3月
- 4) 井上義安「大平遺跡調査報告書」鹿島郡旭村教育委員会 1992年3月
- 5) 井上義安ほか「大貫落神南貝塚」「大貫台地理蔵文化財発掘調査報告書」第2冊 2000年3月
- 6) 井上義安ほか「大貫落神北貝塚」「大貫台地理蔵文化財発掘調査報告書」第1冊 2000年3月
- 7) 黒沢春彦ほか「浜山古墳群発掘調査報告書－1号墳・2号墳－」鹿島郡旭村教育委員会 1988年3月
- 8) 井上義安ほか「皿沼遺跡」大洗町埋蔵文化財発掘調査会 1995年1月
- 9) 中村敬治「ヨナ川道路・大館道路・小館道路－主要地方道大洗友部線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」茨城県教育財团文化財調査報告第71集 1991年3月
- 10) 千種重樹「南藤太郎 鹿島線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報」大洗地区遺跡発掘調査会 1980年3月
- 11) 井上義安ほか「落神遺跡」「大貫台地理蔵文化財発掘調査報告書」第4冊 2001年6月
- 12) 井上義安ほか「茨城県大洗町長峰道路」「大洗文化財調査報告書」第4集 大洗町教育委員会 1973年12月
- 13) 井上義安ほか「北山遺跡・定使面道路－サイプレスカントリー・クラブ造成工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書I－」旭村埋蔵文化財発掘調査会 1994年7月
- 14) 井上義安ほか「飛城・常福寺道路」「大貫台地理蔵文化財発掘調査報告書」第3冊 2000年3月
- 15) 井上義安ほか「登城道路」「大貫台地理蔵文化財発掘調査報告書」第5冊 2001年6月
- 16) 註7) 同じ
- 17) 和田正年ほか「天神山古墳群（4号墳）」旭村教育委員会 1983年3月
- 18) 中山信名修・栗田寛補「新編常陸國誌」宮崎報恩会版 善書房 1969年11月
- 19) 註9) 同じ

参考文献

茨城県教育厅文化課編「茨城県遺跡地図」1986年3月



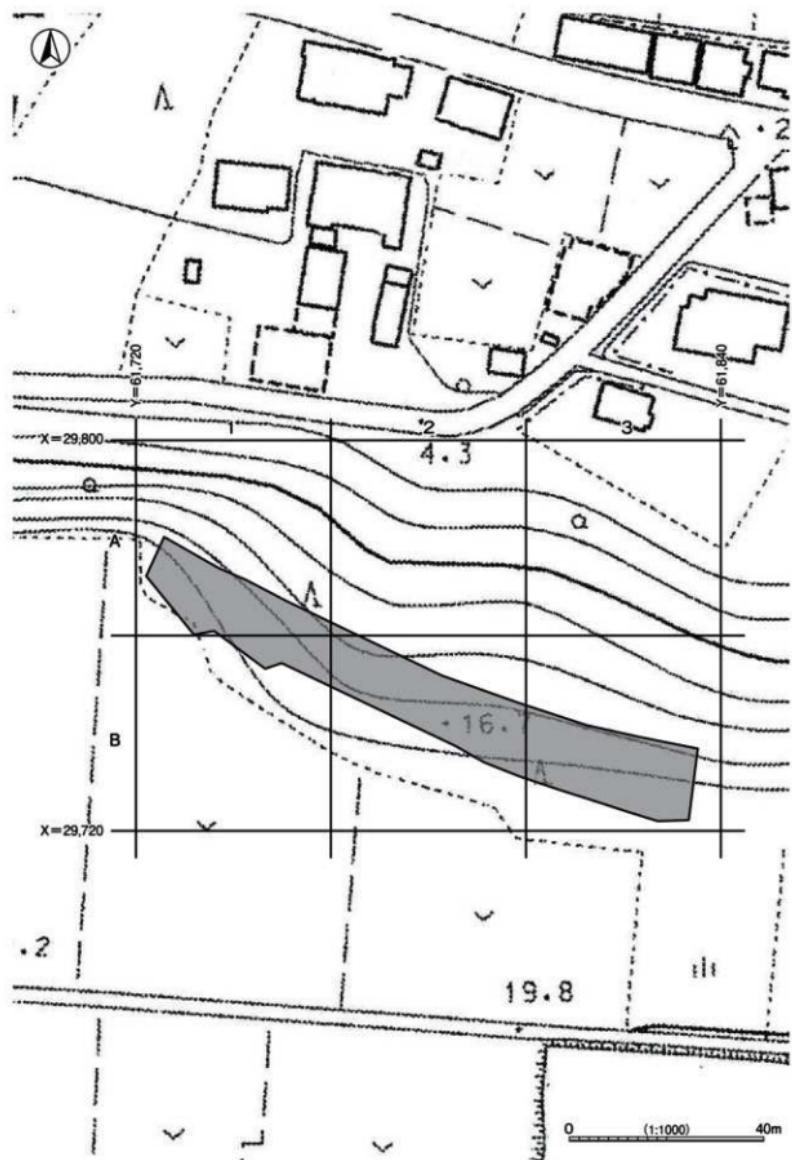
第1図 天神道B遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000分の1「磯浜・徳宿」）

第1表 天神道B遺跡周辺遺跡一覧(1)

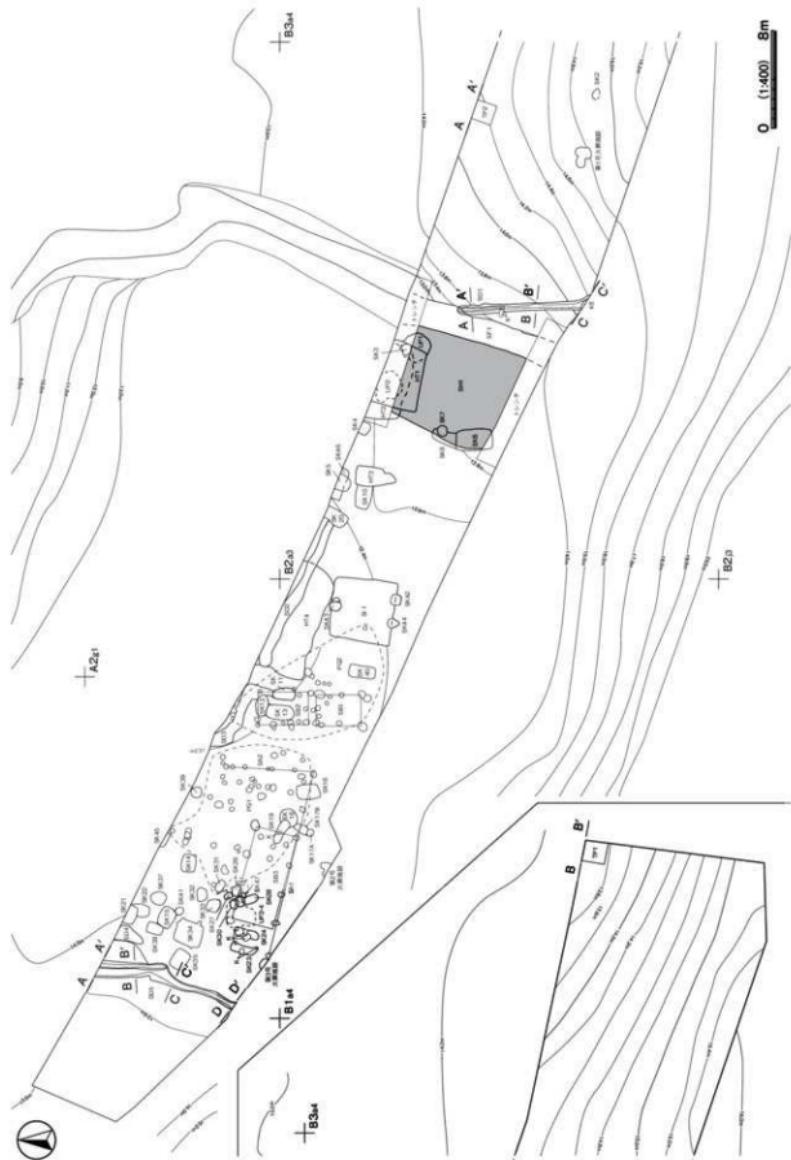
番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代					
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町
①	天神道B遺跡			○		○	○	52	田ノ上遺跡		○		○		
2	天神道遺跡	○			○	○	○	53	日明田B遺跡		○	○	○	○	○
3	天神山古墳群			○				54	半路遺跡		○				
4	大谷川遺跡	○	○	○	○	○		55	山田B遺跡					○	
5	大館遺跡			○	○			56	上太田遺跡		○		○	○	
6	大船跡						○	57	櫛ノ内遺跡		○	○	○	○	○
7	小船跡						○	58	遠原遺跡		○		○	○	○
8	或田堀遺跡	○	○		○	○		59	明鳥舞山遺跡		○	○	○	○	○
9	小船着跡	○	○	○	○	○		60	古山道遺跡				○	○	
10	エモザ遺跡					○		61	山田A遺跡		○		○	○	
11	北山遺跡						○	62	仲太田遺跡				○	○	
12	黒沼遺跡	○	○		○			63	仲太田B遺跡		○	○			
13	南向A遺跡	○		○	○			64	落合A遺跡						
14	高塚A遺跡	○						65	落合B遺跡		○		○	○	
15	因屋遺跡					○		66	浜田A遺跡		○		○	○	
16	南向C遺跡							67	浜田B遺跡		○	○	○	○	
17	石塚遺跡	○	○	○	○	○		68	美志舞遺跡		○				
18	尖山C遺跡	○						69	町田原遺跡		○	○	○		
19	尻尻遺跡	○	○	○	○			70	造谷遺跡		○	○	○	○	
20	椎木下遺跡	○	○	○	○			71	畠田A遺跡		○		○	○	
21	ヨナ川遺跡	○	○	○	○	○		72	山野A遺跡		○		○		
22	椎木古墳				○			73	和田台遺跡				○	○	
23	松川原古墳						○	74	仙神上A遺跡		○		○		
24	臼跡原古墳				○			75	高田前遺跡		○		○		
25	廻山船跡					○		76	仙神上C遺跡		○		○		
26	おんだし港跡	○	○	○	○			77	白幡遺跡		○		○		
27	大田山遺跡				○			78	仙神上B遺跡		○		○		
28	船跡				○			79	出山遺跡		○		○	○	
29	下太田遺跡	○		○	○			80	ミスマ遺跡		○		○		
30	金引船跡	○			○	○	○	81	田崎古墳群				○		
31	希須遺跡					○	○	82	上ノ台遺跡		○	○	○	○	
32	下太田古墳群			○				83	豊崎遺跡		○		○	○	
33	下太田沼遺跡	○						84	上松遺跡		○				
34	山野遺跡	○			○		○	85	三角山遺跡		○		○		
35	さんや遺跡	○						86	春上遺跡		○	○	○		
36	尖山B遺跡	○			○			87	大神後遺跡		○		○		
37	尖山A遺跡	○						88	山田遺跡				○	○	
38	沢尻東B遺跡	○						89	石田遺跡		○				
39	上至賀浜B遺跡	○			○			90	橋本久保B遺跡		○	○	○		
40	上至賀浜A遺跡	○						91	京地遺跡		○		○		
41	七日原A遺跡	○			○			92	大神遺跡				○		
42	神田D遺跡	○						93	橋本久保A遺跡		○		○		
43	三ツ又遺跡	○			○			94	柏平遺跡		○				
44	飛田遺跡	○						95	鹿田遺跡		○				
45	神田D遺跡	○						96	一ノ久保遺跡		○	○	○		
46	ハチソンノB遺跡	○						97	園中塚遺跡				○		
47	舟天B遺跡	○				○	○	98	八反歩遺跡		○				
48	仲峰遺跡	○		○	○	○		99	三ノ久保A遺跡			○	○		
49	太田山A遺跡	○	○	○	○			100	清水頭A遺跡		○				
50	日明田A遺跡	○	○	○	○			101	三ノ久保B遺跡		○	○	○		
51	七日原B遺跡	○						102	清水頭B遺跡		○				

第2表 天神道B遺跡周辺遺跡一覧(2)

番号	道路名	時代							番号	道路名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
103	荒田古墳群			○					129	天神山遺跡							○
104	田崎高野C遺跡	○							140	西台遺跡	○						
105	海道内A遺跡	○	○						141	荒地八幡野B遺跡	○						
106	上至八貴野道路	○							142	田道南遺跡	○	○					
107	大田山C遺跡	○							143	荒田G遺跡	○						
108	南御太郎遺跡	○	○	○	○	○			144	ハチカンノツA遺跡	○						
109	下太田船跡						○		145	造谷船跡							○
110	興舟遺跡	○	○	○					146	船久保塚	○	○					
111	大塙跡		○	○	○				147	山ノ崎C遺跡	○	○	○	○	○		
112	八日山遺跡	○			○				148	辰沢A遺跡	○						
113	前野遺跡	○			○				149	辰沢B遺跡	○						
114	日中内遺跡	○	○		○	○			150	土佐山遺跡						○	○
115	南向B遺跡	○			○				151	山ノ崎D遺跡						○	○
116	高屋B遺跡	○							152	町田古墳						○	
117	大田山B遺跡	○							153	牛山遺跡	○						
118	荒地郷土遺跡	○							154	小和峰B遺跡	○	○	○				
119	浜田古墳群			○					155	籠居山遺跡	○						
120	日御原遺跡		○	○		○	○		156	造谷辰沢A遺跡	○						○
121	上太田郷土遺跡	○							157	新田遺跡	○					○	○
122	神田E遺跡	○	○						158	尾根遺跡	○						
123	神田F遺跡	○							159	山野古墳群						○	
124	久保尻遺跡			○	○				160	山ノ崎B遺跡	○	○				○	○
125	真輪中丸遺跡	○			○				161	三坊池B遺跡	○	○	○	○	○		
126	田向遺跡	○		○					162	三坊池A遺跡	○		○	○	○		
127	大平跡	○		○	○				163	野山B遺跡	○	○	○	○			
128	滑石遺跡	○			○	○	○		164	畠田B遺跡	○						
129	矢神遺跡	○			○				165	畠田C遺跡	○						
130	左道内遺跡	○			○	○	○		166	畠田D遺跡	○						
131	向遺跡			○	○				167	畠田F遺跡	○					○	
132	大峰B遺跡	○			○				168	畠田經塚						○	
133	大峰A遺跡	○							169	三坊池C遺跡			○	○			
134	松田遺跡	○							170	三坊池古墳群			○				
135	大相田遺跡	○					○		171	新田前塚							
136	千葉遺跡	○							172	海道向B遺跡	○						
137	和田台古墳				○				173	田道遺跡	○						
138	慈鋼遺跡	○							174	畠田E遺跡	○					○	



第2図 天神道B遺跡調査区設定図（鉢田市都市計画図 2,500分の1）



第3図 遺構全体図

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

天神道B遺跡は、鉢田市の北部に位置し、潤沼の南側標高12mの台地上に立地している。当遺跡は東西120m、南北40mの範囲で指定されており、今回報告する調査区域はその南部にあたり、調査面積は1,593m²である。

調査の結果、堅穴建物跡1棟（古墳時代）、掘立柱建物跡3棟（室町時代）、方形堅穴遺構4基（室町時代）、地下式坑4基（室町時代）、火葬施設3基（室町時代）、溝跡5条（室町時代3、時期不明2）、道路跡1条（江戸時代以降）、整地面1か所（江戸時代以降）、土坑44基（江戸時代以降1、時期不明43）、柱穴列2条（室町時代）、ピット群2か所（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に5箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師器（壺・甕・瓶）、土師質土器（皿・焙烙）、陶器（皿・壺・甕）、土製品（土玉・管状土錐）、石器・石製品（石錘・砥石）、錢貨（皇宋通宝）などである。

第2節 基本層序

テストピットは、調査区北東部の平坦部（B 3f9とB 3e2）に設定し、基本土層（第4図）の観察を行った。土層は14層に分層できる。第2～6層は埋没谷の堆積層である。

第1層は、黒色を呈する表土層である。層厚は30～70cmである。

第2層は、灰黄橙色で褐色土粒子を多量に含む堆積層である。粘性・締まりとも弱く、層厚は最大で20cmである。

第3層は、黒橙色で褐色土粒子を微量に含む堆積層である。粘性・締まりともに強く、層厚は25～40cmである。

第4層は、暗橙色でローム粒子を少量含む堆積層である。粘性・締まりともに強く、層厚は20～30cmである。

第5層は、黒褐色でローム粒子を少量含む堆積層である。粘性・締まりとも強く、層厚は10～15cmである。

第6層は、にぶい黄褐色でロームブロックを多量に含む堆積層である。粘性は弱く、締まりは強く、層厚は10～15cmである。

第7層は、黄橙色を呈する今市・七本桜層である。白色粒子や褐色粒子を含み、粘性は弱く、締まりは強く、層厚は15～30cmである。

第8層は、浅黄橙色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりとも強く、層厚は10～25cmである。

第9層は、黄橙色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとも非常に強く、層厚は10～25cmである。

第10層は、明黄橙色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとも非常に強く、層厚は35～45cmである。

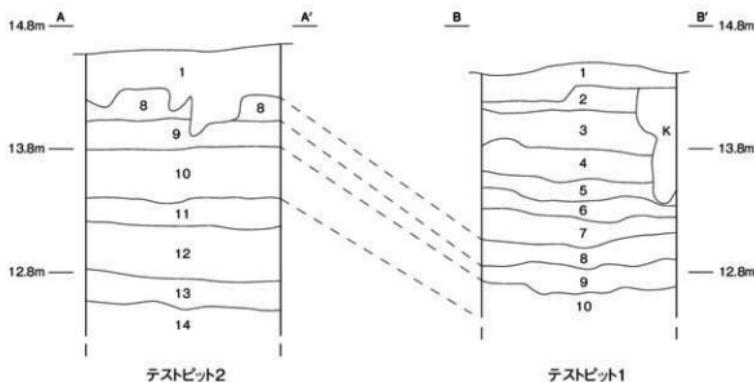
第11層は、黄褐色を呈する潤沼軽石層である。粘性・締まりとも強く、層厚は20～25cmである。

第12層は、明黄褐色を呈する漸移層である。細礫や砂粒を含み、粘性・締まりとも強く、層厚は35～45cmである。

第13層は、黒色を呈する砂層である。砂を多量に含み、粘性はやや弱く、締まりは強く、層厚は20～30cmである。

第14層は、にぶい黄橙色を呈する粘土層である。灰白粘土粒子を多量に含み、粘性・締まりは強い、層厚は10cm以上である。

造構は主に第2層上面で確認した。



第4図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡1棟を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第5～9図 第3・4表 PL 2・8）

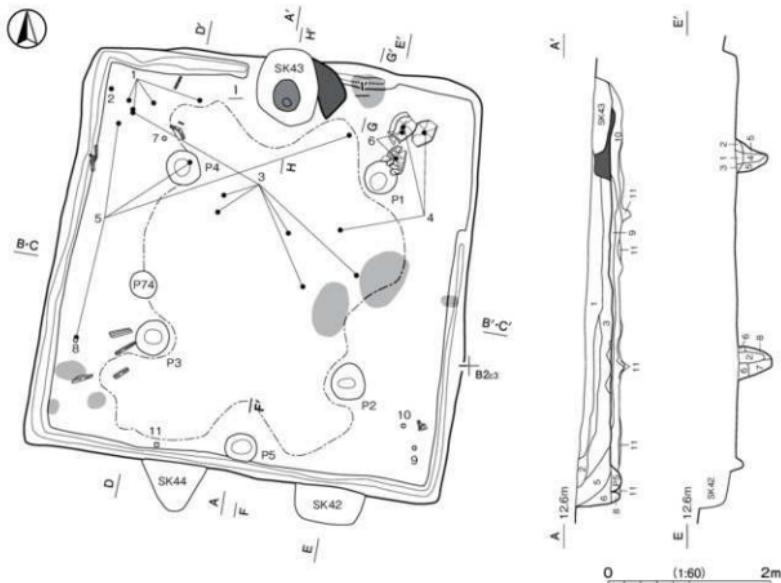
位置 調査区中央部のB 2b1～B 2c3区、標高12mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第42～44号土坑に掘り込まれている。

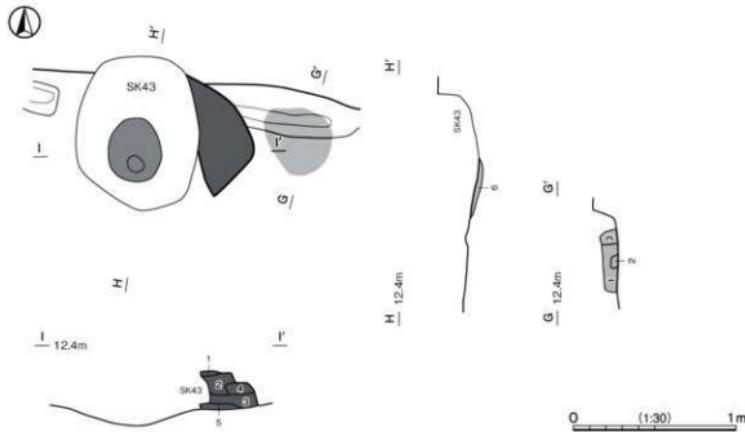
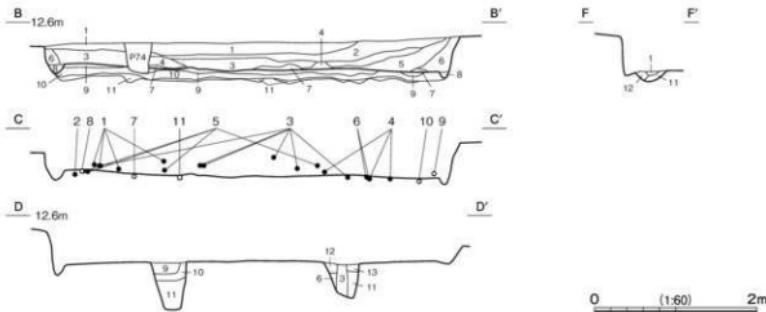
規模と形状 長軸5.20m、短軸4.96mの方形で、主軸方向はN-5°-Eである。壁は高さ30～40cmで、直立している。

床 平坦地、中央部が全体的に踏み固められている。壁溝は北東コーナー部を除いて巡っている。四隅を土坑状に掘り込み、貼床は、ローム主体の第9～11層を10～25cmほど埋土して構築されている。

電 第43号土坑に掘り込まれており、袖部の粘土の一部と火床部の範囲を確認するのみである。袖部は地山の上に灰色粘土主体の第1～3層を積み上げて構築されている。火床部は長径40cm、短径30cmの範囲で確認し、火床面は赤変硬化している。煙道部は第43号土坑に掘り込まれ確認できなかった。



第5図 第1号竪穴建物跡実測図(1)



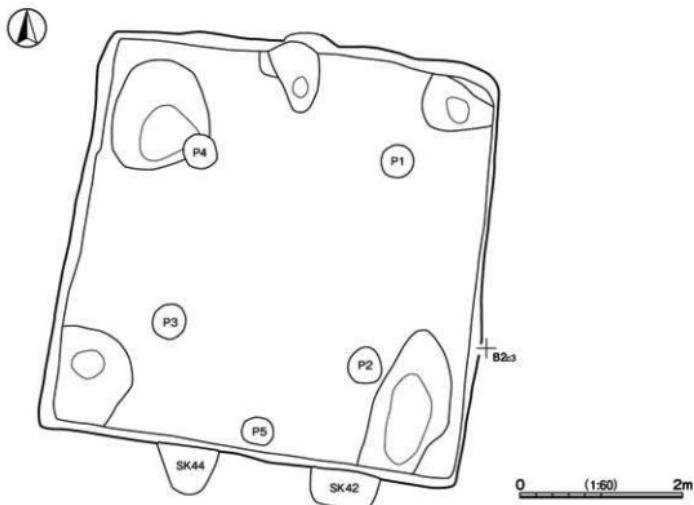
第6図 第1号堅穴建物跡実測図(2)

ピット 5か所。P 1～P 4は、深さ40～45cmで、配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ15cmで南壁際に配置されていることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層に分層できる。1～3層は自然堆積であるが、4～8層はロームブロックや焼土粒子・炭化材・炭化物が含まれていることから出火した後、人為的に埋め戻されて堆積している。

遺物出土状況 土師器片96点（坏10、甕86）、土製品4点（土玉）、石器1点（砥石）が出土している。1は北西コーナー部付近の覆土下層、2は北西コーナー部付近の床面、3は中央部の覆土下層、4・6は北東コーナー部付近の床面、5・7は北西部の床面、8は南西部の覆土下層、9・10は南東部の床面、11は南壁付近の床面からそれぞれ出土している。

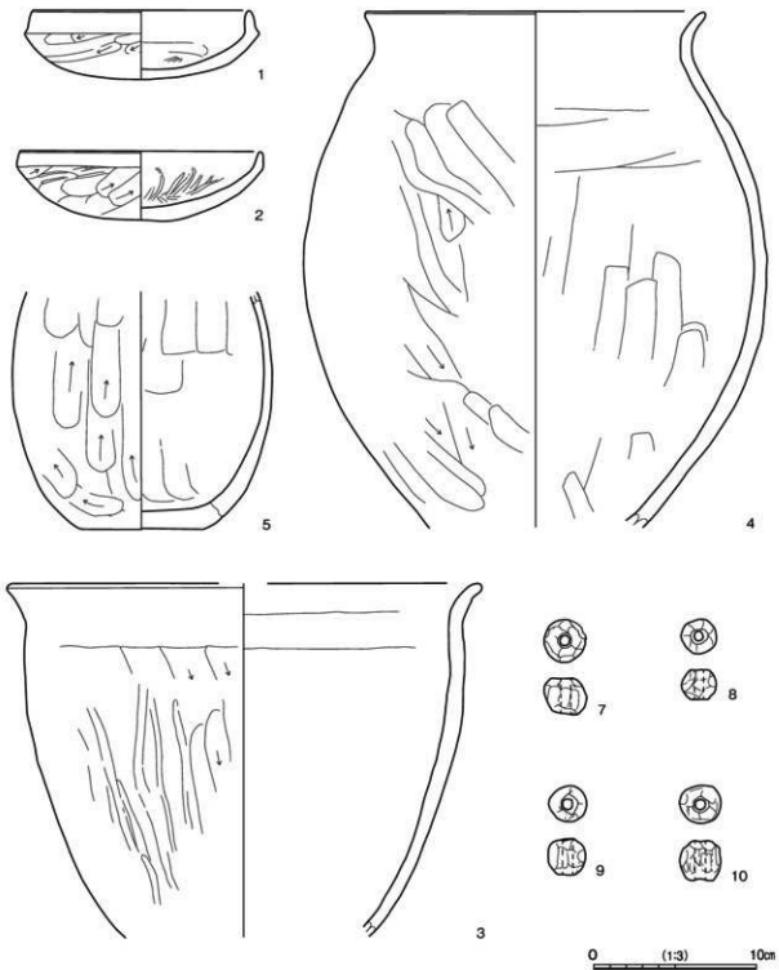
所見 時期は、出土遺物から7世紀前葉と考えられる。床面から焼土や炭化材が確認されていることから焼失建物と推測される。



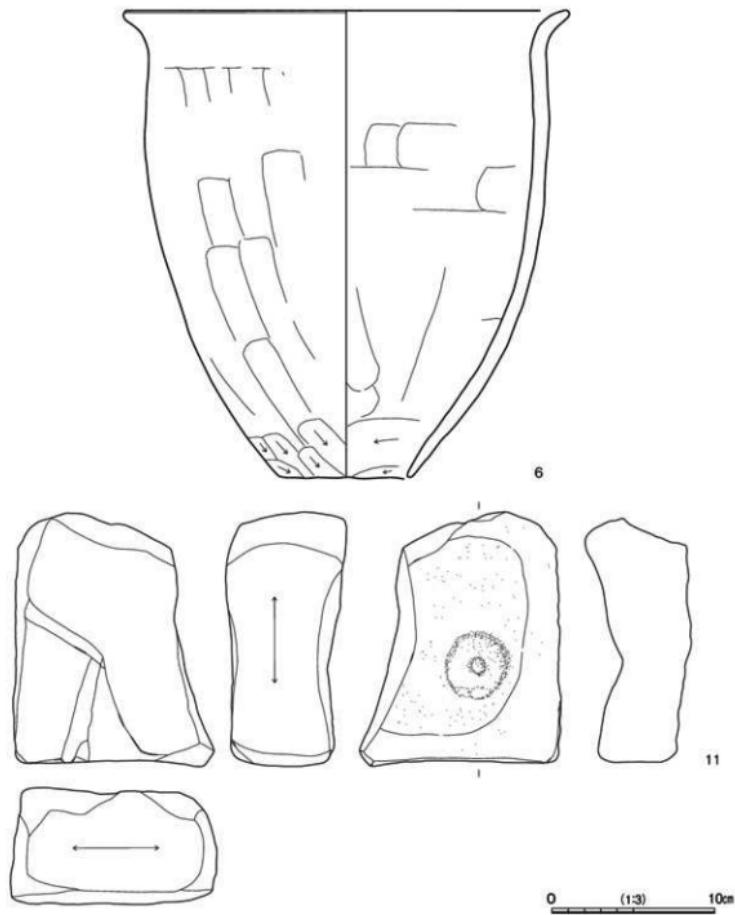
第7図 第1号堅穴建物跡掘方実測図

第3表 第1号堅穴建物跡出土遺物一覧。(1)

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.2	4.2	—	長石・石英・雲母 にぶい程	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面横ナデ後へラ削き 外周斜位のケズリ後削いへラ磨き	覆土下層	70% PL 8	
2	土師器	坏	14.5	4.2	—	長石・石英・雲母 にぶい程	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ後削い反射状 のヘラミガキ 外面へラ削り後削いへラ磨き	床面	70% PL 8	
3	土師器	甕	[28.6]	(21.7)	—	長石・石英・雲母 糊	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外周縦位のへラ削 り後削いへラ磨き 内面ナデ	覆土下層	25% PL 8	
4	土師器	甕	20.6	(31.7)	—	長石・石英・雲母・チャート 黄澄	にぶい 普通	口縁部外・内面横ナデ 体部内面ナデ後削いへ ラ削り 体部外周縦位のへラ削り 部分的油焼 付着	床面	80% PL 8	
5	土師器	甕	—	(14.5)	7.4	長石・石英 糊	普通	体部外周縦位のへラ削り 体部内面へラナデ 輪郭強	床面	25% PL 8	
6	土師器	甕	27.0	28.6	8.0	長石・石英・雲母 にぶい程	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外周縦位の削り後 部分的ナデ 体部内面ナデ 下端部位のナデ	床面	90% PL 8	



第8図 第1号堅穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第9図 第1号堅穴建物跡出土遺物実測図(2)

第4表 第1号堅穴建物跡出土遺物一覧(2)

番号	形様	径	孔径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
7	土玉	26	0.6	22	138	長石・石英・雲母	明赤褐色	穿孔 ヘラナデ	床面	PL.9
8	土玉	23	0.5	18	87	長石	にぶい橙	穿孔 ヘラナデ	覆土下層	PL.9
9	土玉	23	0.6	21	10.4	長石・石英	にぶい 黄褐色	穿孔 指頭ナデ	床面	PL.9
10	土玉	25	0.6	24	136	長石・赤色粒子	灰黃	穿孔 指頭ナデ後 ヘラ磨き	床面	PL.9

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
11	砥石	(15.5)	(12.3)	(7.4)	(824.0)	砂岩	磨り面2面 四石転用	床面	PL.9

2 室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、掘立柱建物跡3棟、方形竖穴遺構4基、地下式坑4基、火葬施設3基、溝跡3条、柱穴列2条を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

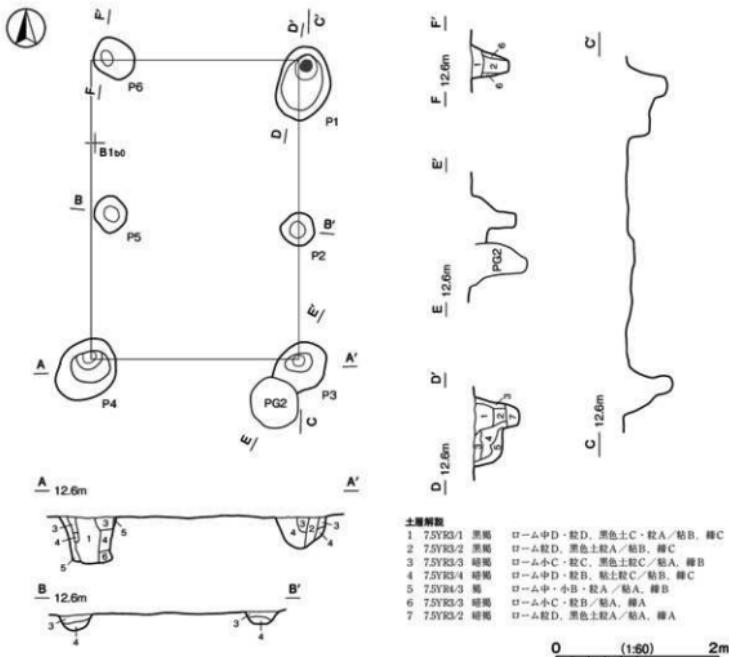
第1号掘立柱建物跡 (第10図 PL 2)

位置 調査区西部B 1a1 ~ B 1b0区、標高12mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2号ピット群に掘り込まれている。

規模と構造 衍行2間、梁行1間の側柱建物跡で、衍行方向N - 5° - Eの南北棟である。規模は衍行3.80m、梁行2.40mで、面積は9.12m²である。柱間寸法は、衍行が東平は北妻から2.10m(7尺)、1.80m(6尺)、西平が北妻から2.00m(7尺)、1.80m(6尺)で柱筋はほぼ揃っている。また、梁行は、北妻が2.40m(8尺)、南妻が2.60m(8尺)である。P 1の底面で柱の当たりを確認した。

柱穴 6か所。掘方の平面形は円形または橢円形で、長径40~80cm、短径40~60cmである。深さ20~70cmで掘方の壁は直立または外傾している。第3~7層は掘方への埋土で、第1・2層は柱抜き取り後の覆土と考えられる。



第10図 第1号掘立柱建物跡実測図

所見 時期は、第2号掘立柱建物跡と桁行方向が同じことから室町時代と考えられる。

第2号掘立柱建物跡（第11図 PL.2）

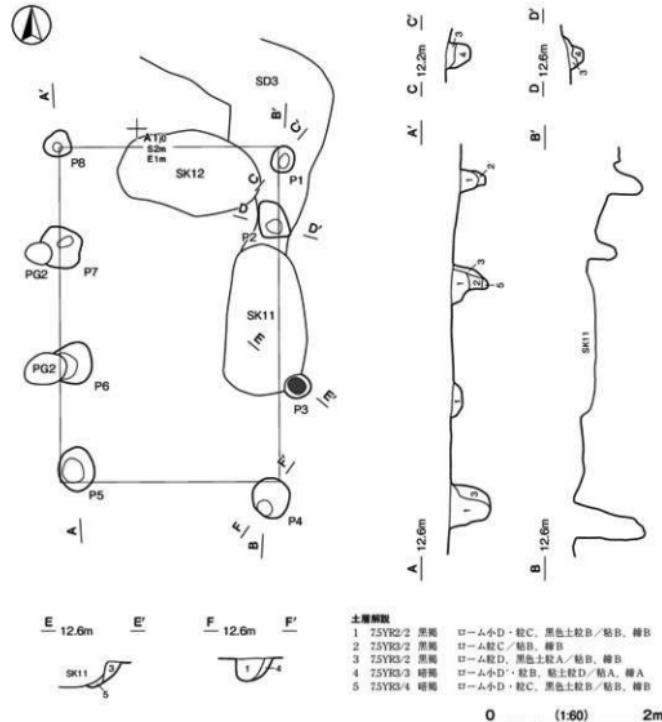
位置 調査区西部のA 1j0～B 1a0区、標高12mなどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第11号土坑、第3号溝、第2号ピット群に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N~S-Eの南北棟である。規模は桁行4.02m、梁行2.20mで、面積は8.84m²である。柱間寸法は、桁行が東平は北妻から0.92m(3尺)、2.10m(7尺)、1.40m(5尺)、西平が北妻から1.22m(4尺)、1.40m(5尺)、1.40m(5尺)で柱筋はほぼ揃っている。また、梁行は北妻が2.70m(9尺)、南妻が2.20m(7尺)である。P3の底面で柱の当たりを確認した。

柱穴 8か所。掘方の平面形は円形または楕円形で、長径30~50cm、短径20~40cmである。深さ30~50cmで掘方の壁は外傾または直立している。第4・5層は掘方への埋土で、第1~3層は柱抜き取り後の覆土と考えられる。

所見 時期は、重複関係から室町時代と考えられる。



第11図 第2号掘立柱建物跡実測図

第3号掘立柱建物跡（第12図 PL 2）

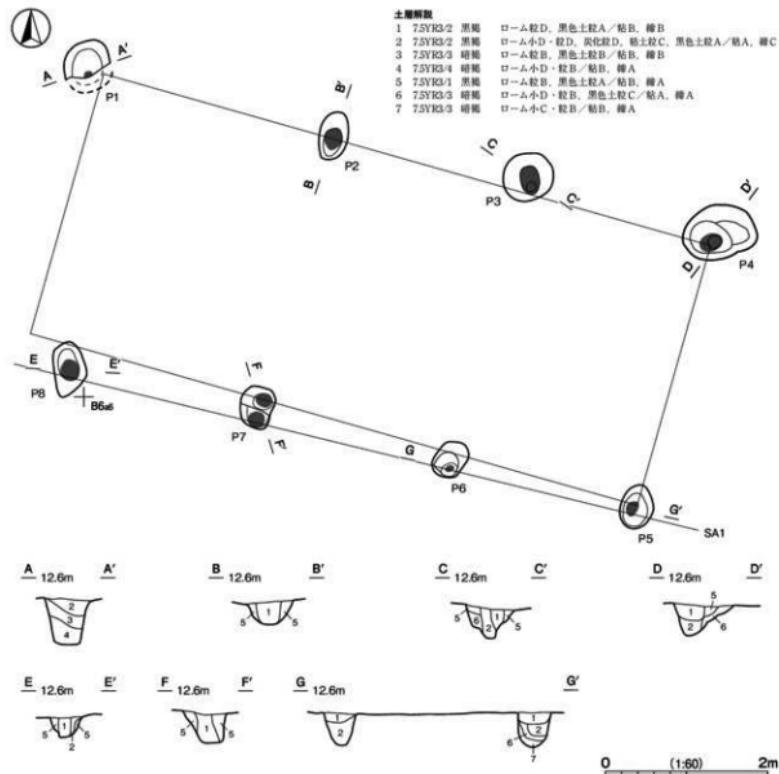
位置 調査区西部 A 1a6 ~ B 1a7区、標高 12m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号ピット群に掘り込まれている。第1号柱穴列、第3・4号地下式坑と重複するが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向 N - 75° - W の東西棟である。規模は桁行 7.20m、梁行 3.30m で、面積は 23.76m²である。柱間寸法は、桁行が北平は西妻から 3.00m (10 尺)、2.40m (8 尺)、2.40m (8 尺)、南平は 2.4m (8 尺) 等間で柱筋はほぼ揃っている。また、梁行は西妻が 3.6m (12 尺)、東妻が 3.3m (11 尺) である。全ての柱穴の底面で柱の当たりを確認した。

柱穴 8か所。平面形は円形または梢円形で、長径 40 ~ 80cm、短径 40 ~ 60cm である。深さ 30 ~ 60cm で掘方の壁は外傾・直立している。第5 ~ 7層は掘方への埋土で、第1 ~ 4 層は柱抜き取り後の覆土と考えられる。

所見 時期は、形状から室町時代と考えられる。



第12図 第3号掘立柱建物跡実測図

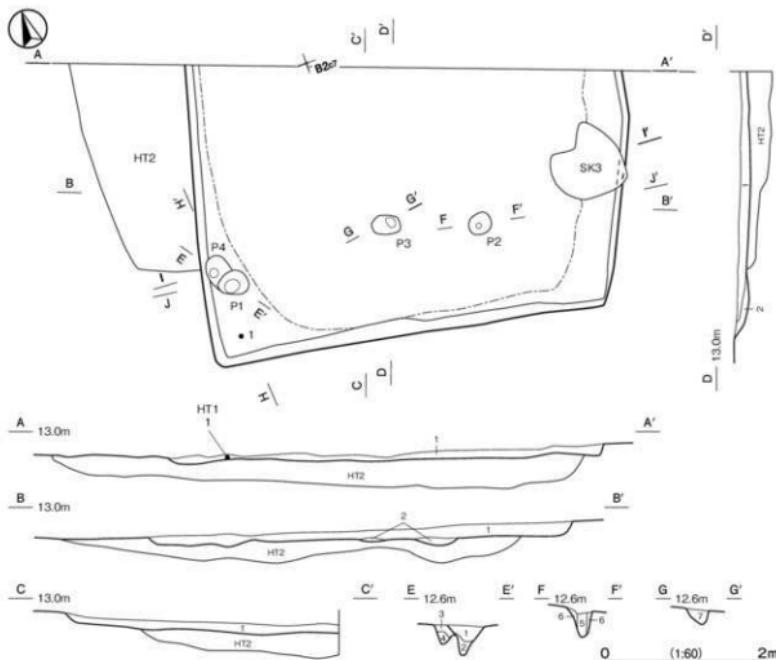
第5表 室町時代掘立柱建物跡一覧

番号	位置	柱行方向	柱間数 柱×梁(間)	規模 柱×梁(m)	面積 (m ²)	柱間寸法		柱穴			主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)	
						柱間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)			
1	B1a1 B1b6	N - 5° - E	2 × 1	3.80 × 2.40	9.12	18 × 21	2.4 × 2.6	側柱	6	円形・椭円形	20 ~ 70		室町	本器→ PG2
2	A1j6 Bla6	N - 5° - E	3 × 1	4.02 × 2.20	8.84	09 × 21	2.2 × 2.7	側柱	8	円形・椭円形	30 ~ 50		室町	本器→ SKII SD 3 PG 2
3	A1j6 B1b7	N - 73° - W	3 × 1	7.20 × 3.30	23.76	24 × 30	3.3 × 3.6	側柱	8	円形・椭円形	30 ~ 60		室町	本器→ PG 2

(2) 方形堅穴遺構

第1号方形堅穴遺構 (第13・14図 第6表 PL 2・9)

位置 調査区中央部 B 2c6 ~ B 2c7 区、標高 12m ほどの平坦な台地上に位置している。



土層解説

- 1 7SYR2-3 梱暗渠 ローム粒D、炭化粒D、ローム小D・粘A、砂土C、砂土粒D/粘A、砂A
2 7SYR3-4 梱暗渠 ローム中D・小・粘B/粘A、砂A

ピット土層解説

- 1 7SYR2-2 黒褐 ローム粒D、黑色土粒A/粘A、砂B
2 7SYR3-2 黑褐 ローム粒D、黑色土粒A/粘B、砂B
3 7SYR3-3 黑褐 ローム小C・粒B、黑色土粒C/粘B、砂A
4 7SYR3-4 黑褐 ローム小D・粘C、黑色土粒D/粘B、砂B
5 7SYR3-5 黑褐 ロームC、炭化粒C、砂土粒B、黑色土粒C/粘A、砂B
6 7SYR3-6 黑褐 ローム小・粘B、炭化粒C/粘A、砂B
7 7SYR3-7 黑褐 ローム中・小・粘B/粘B、砂B

第13図 第1号方形堅穴遺構実測図

重複関係 第2号方形堅穴遺構を掘り込み、第3号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区外に延びているため、東西軸5.10m、南北軸3.50mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定され、主軸方向はN-80°-Wである。壁は高さ10cmで、外傾して立ち上がっている。

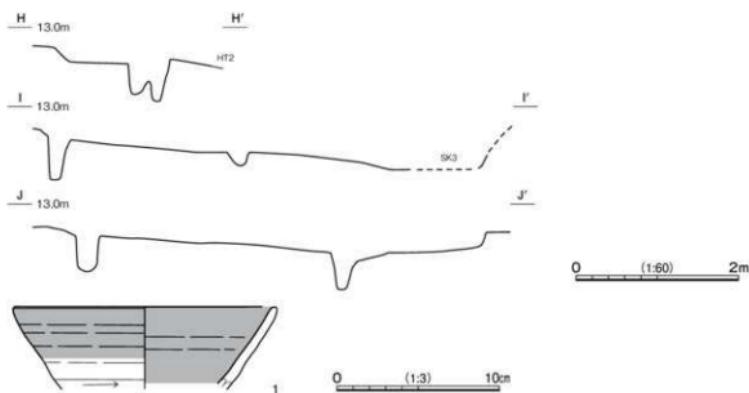
床 平坦で、中央部が全体的に踏み固められている。

ピット 4か所。P1-P4は深さ20-40cmほどで、性格は不明である。

覆土 2層に分層できるが、層厚が薄いため堆積状況は不明である。

遺物出土状況 陶器片1点(碗)の他、混入したと思われる土器片8点(环2、壺6)が出土している。1は、南西部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から15世紀前葉以降と考えられる。



第14図 第1号方形堅穴遺構・出土遺物実測図

第6表 第1号方形堅穴遺構出土遺物一覧

番号	種別	部種	口径	壁高	底径	粘土	色調	釉調	特 徴	費	出土位置	備考
1	陶器	碗	[160]	[3.0]	-	長石	にぶい 黄橙	口縁部クロ成形 灰釉施釉	体部外面下端削り	内外面	覆土下層	10% PL.8 古窯P7層

第2号方形堅穴遺構 (第15図 第7表 PL.3・9)

位置 調査区中央部B2b6-B2c6区、標高12mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2号地下式坑を掘り込み、第1号方形堅穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区外に延びているため、東西軸5.50m、南北軸2.20mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定され、主軸方向はN-70°-Wである。壁は高さ20cm未満で、緩やかに立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が全体的に踏み固められている。貼床は、ローム主体の第4-7層を5-25cmほ

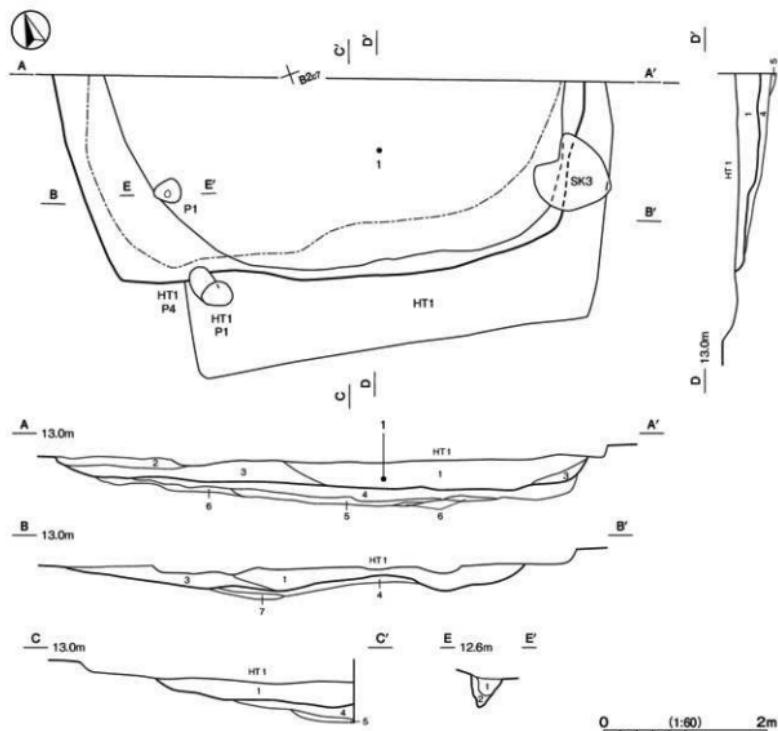
ど埋土して構築されている。

ピット P 1 は深さ 40cm ほどで、性格は不明である。

覆土 3 層に分層できる。粘土ブロックや炭化粒子を含むため人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（皿）の他、混入したとみられる土師器片 7 点（甕）、須恵器片 4 点（甕）が出土している。1 は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土遺物や重複関係から第 1 号方形堅穴造構以前の室町時代と考えられる。



土層解説

- 1 7SYR3/1 黒褐 ローム粒 C、炭化粒 C、黒色土 A／粘 B、縫 B
- 2 7SYR3/3 單層 ローム小 C／粘 A／粘 B、縫 B
- 3 7SYR3/2 黒褐 ローム中 D／粒 D、炭化粒 D、黒色土粒 A／粘 B、縫 B
- 4 2SYR3/2 黒褐 ローム中 C、粘土粒 D／粘 B、縫 A
- 5 7SYR3/2 黒褐 ローム中 D／粒 C、粘土粒 C／粘 A、縫 A
- 6 7SYR3/4 單層 ローム中・小・粒 B／粘 A、縫 A
- 7 7SYR3/1 黒褐 ローム粒 B、炭化粒 B、粘土粒 C／粘 A、縫 A

ピット土壤剖面

- 1 7SYR3/3 單層 ローム小・粒 B、黒色土粒 C／粘 C、縫 C
- 2 7SYR3/4 單層 ローム小 B・粒 A／粘 B、縫 A

第 15 図 第 2 号方形堅穴造構・出土遺物実測図

第7表 第2号方形堅穴遺構出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	厚高	底径	胎土	色調	焼成	特 徴	出土位置	備考
1	土師質 土器	小瓶	—	(21)	[70]	長石・雲母	明赤褐	普通	ロクロ成形 底部回転系切り	覆土下層	5% PL. 9

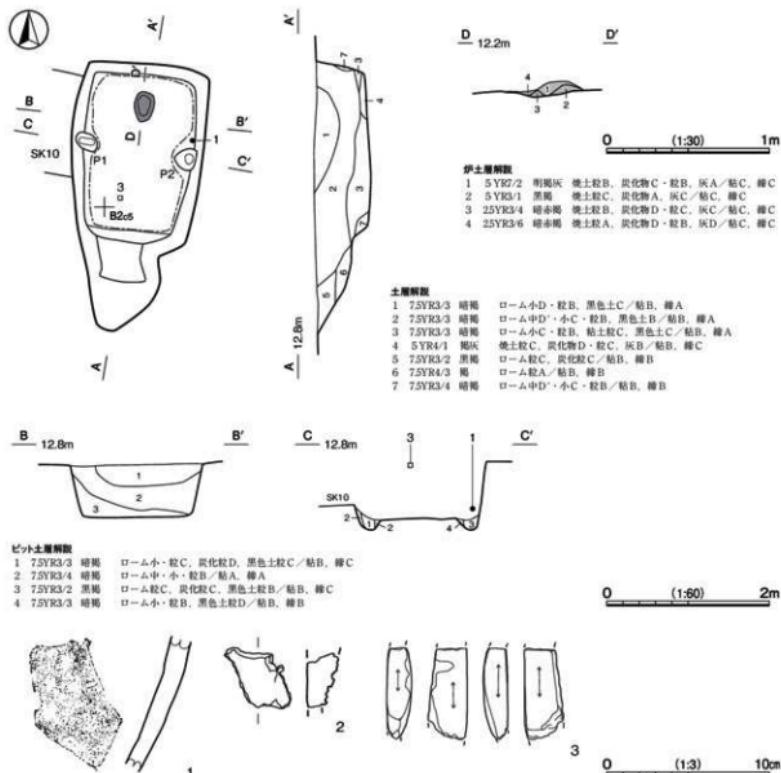
第3号方形堅穴遺構（第16図 第8表 PL. 3・9）

位置 調査区中央部B 2b4～B 2b5区、標高12mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第10号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸220m、短軸1.60mの長方形で、長軸方向はN-15°-Eである。壁は高さ70cmで直立している。南部に幅0.90m、長さ1.30mの出入口施設と考えられるスロープを確認した。

炉 北部に付設されている。長径30cm、短径25cmの橢円形を呈する地床炉である。床面から5cmほど掘



第16図 第3号方形堅穴遺構・出土遺物実測図

りくぼめて構築されている。炉床面は火熱を受けて赤変している。

床 平坦で、中央部が全体的に踏み固められている。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから人為堆積と考えられる。

ピット 2か所。P.1・P.2は深さ10・15cmで、配置から主柱穴と考えられる。

遺物出土状況 陶器片1点(壺)、粘土塊4点。石製品1点(砥石)が出土している。1は東壁際の覆土下層から出土している。2は覆土中から出土し、礎材として利用されたものと考えられる。3は中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から室町時代と考えられる。

第8表 第3号方形堅穴造構出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	釉調	特徴	出土位置	備考
1	陶器	壺	—	(83)	—	長石・石英・褐鐵	にぶい橙	灰青	体部片 内面擬似のナデ 外面ナデ	覆土下層	5% PL.9 北側裏手
番号	部材	長さ	幅	厚さ	重さ	胎土	色調		特徴	出土位置	備考
2	礎材	(37)	(40)	(19)	(13.0)	粘土	にぶい橙	帶内に墨混入		覆土中	PL.9
番号	部材	長さ	幅	厚さ	重さ	材質			特徴	出土位置	備考
3	砥石	56	24	15	30.0	泥岩	底面4面			覆土上層	5% PL.9

第4号方形堅穴造構(第17・18図 第9表 PL.3・9)

位置 調査区西部 A.1j0 ~ B.2b3区、標高12mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区外に延びているため、東西軸は8.50m、南北軸は3.30mしか確認できなかった。平面形は不整形で、主軸方向はN-65°-Wである。壁は高さ10~35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が全体的に踏み固められ、2層上面で硬化面1面を、3層上面で硬化面2面目を確認することができた。

ピット 11か所。深さ5~15cmほどで性格は不明である。

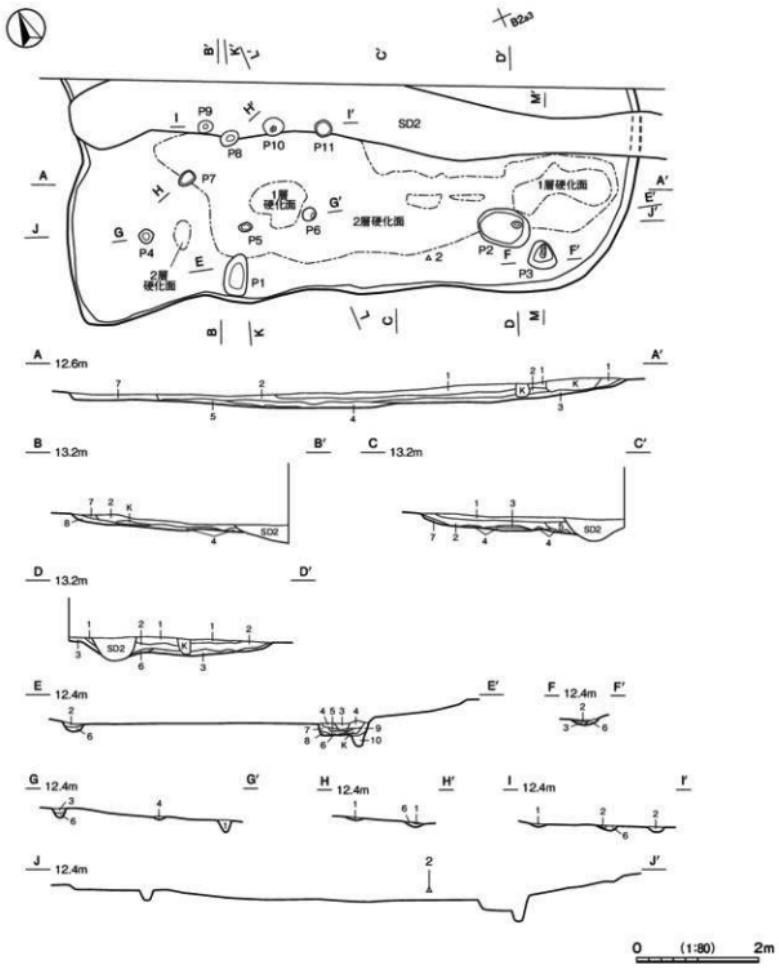
覆土 8層に分層できる。焼土粒子やロームブロックを含むことから人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片2点(皿)、陶器片1点(壺)、銭貨1点(皇宋通宝)の他、混入したとみられる土師器片2点(坏、壺)が出土している。1は覆土中、2は南部の第2硬化面内から出土している。

所見 時期は、出土遺物から室町時代と考えられる。

第9表 第4号方形堅穴造構出土遺物一覧

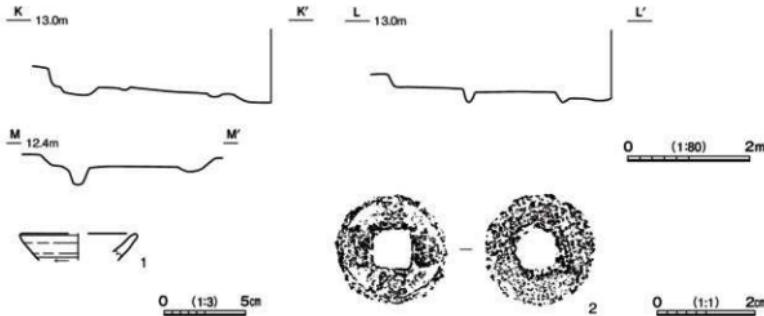
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	小皿	(69)	(16)	—	石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部から体部ロクロナデ 体部下端ヘラ削り	覆土中	5% PL.9
番号	部材	件	孔径	厚さ	重さ	材質	初造年		特徴	出土位置	備考
2	皇宋通宝	2.33	0.73	0.13	2.4	銅	1.039	北宋	革書体	床面	PL.9



土壤解説

1 75YR3/3	暗褐	ローム粒D、壤土粒D、炭化粒D、黑色土C／粘A、細A	1 75YR1.0	黒褐	ローム粒D、黑色土粒A／粘B、細A
2 75YR2/4	暗褐	ローム小・粒C、壤土粒D、炭化粒D、黑色土C／粘A、細A	2 75YR2/2	黑褐	ローム粒C、黑色土粒A／粘B、細A
3 75YR4/3	褐	ローム中C・少・粒B、炭化粒C／粘A、細A	3 75YR2/3	暗褐	ローム中C・粒B／粘B、細A
4 75YR2/3	暗褐	ローム少・少・粒C、壤土粒D、炭化粒C、黑色土C／粘A、細A	4 75YR2/4	暗褐	ローム少C・粘A／粘B、細A
5 75YR2/2	黑褐	ローム粒D、炭化粒D、黑色土粒A／粘B、細B	5 75YR2/3	褐暗褐	ローム少D・粘C、黑色土粒D／粘B、綠B
6 75YR2/3	褐褐	ローム少・粒D、黑色土粒A／粘B、細B	6 75YR3/3	褐	ローム中・粒C、黑色土粒D／粘B、綠B
7 75YR2/3	褐暗褐	ローム少D・粒C／粘C、細B	7 75YR2/3	褐暗褐	ローム少D・粒C／粘A、細A
8 75YR3/4	暗褐	ローム少・粒C、黑色土粒C／粘A、細A	8 75YR4/4	褐	ローム大・少C・粒B／粘A、細A
			9 75YR2/2	黑褐	ローム粒C、黑色土粒B／粘B、細C
			10 75YR3/2	黑褐	ローム粒C／粘B、細B

第17図 第4号方形窓穴造構実測図



第18図 第4号方形堅穴遺構・出土遺物実測図

第10表 室町時代方形堅穴遺構一覧

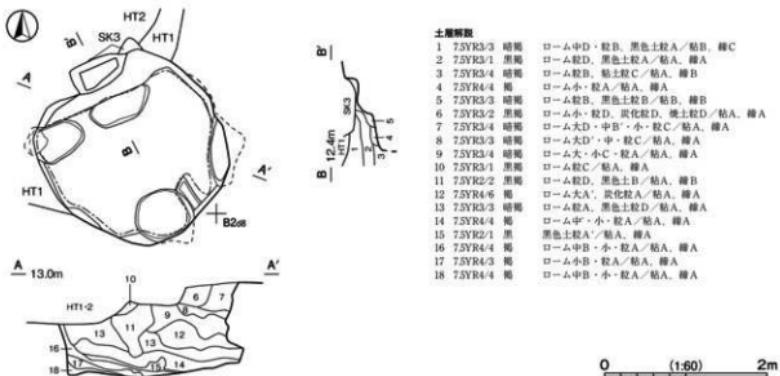
番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面 ピット	内部施設 炉	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸(m)	幅(m)							
1	B2c6～ B2e6	N - 80° - W	[方形]	5.10 × (3.50)	10	平坦	4	-	自然	土師器、陶器	15C前葉 以降	HT 2 → 本跡 → SK 3
2	B2e6～ B2e6	N - 70° - W	[方形]	5.50 × (2.20)	0 ~ 20	平坦	1	-	自然	土師質土器	室町	UP 2 → 本跡 → HT 1
3	B2b4～ B2b6	N - 15° - E	長方形	2.20 × 1.60	70	平坦	2	1	人為	陶器	室町	SK10 → 本跡
4	A1g0～ B2h3	N - 65° - W	不整形	8.50 × (3.30)	10 ~ 35	平坦	11	-	人為	土師質土器、鐵貨	室町	本跡 → SD 2

(3) 地下式坑

第1号地下式坑 (第19図 PL 3)

位置 調査区中央部 B 2c7 区、標高12m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1・2号方形堅穴遺構、第3号土坑に掘り込まれている。



第19図 第1号地下式坑実測図

規模と形状 軸長は2.70mで、主軸方向はN-30°-Wである。

豊坑 主室の北西壁に位置し、長軸0.62m、短軸0.34mの長方形である。深さ60cmで、壁は緩やかに立ち上がる。

主室 奥行2.30m、横幅2.20mの円形である。深さ110cmで壁は直立している。底面は凸凹があり、豊坑から中央部が踏み固められている。三方で小室を確認した。

覆土 18層に分層できる。第9・12層はロームブロックを多く含むことから天井部の崩落と考えられる。

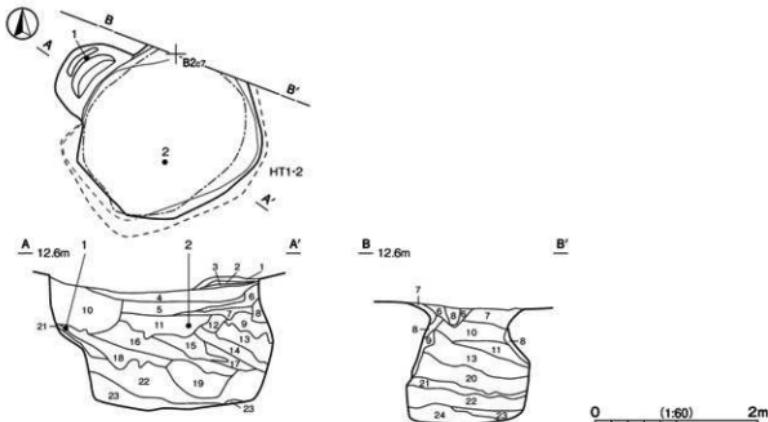
遺物出土状況 馬歛1点、鍬4点が出土している。南東部の小室で馬歛を検出した。図示できる遺物は出土しなかった。

所見 時期は、第1・2号方形豊穴遺構との重複関係や遺構の形態から、室町時代と考えられる。

第2号地下式坑（第20図 第11表 PL 3・9）

位置 調査区中央のB2c6区、標高12mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1・2号方形豊穴遺構に掘り込まれている。



土壤剖面

1 75YR6/5	利根	ローム大・粘A、粘土小B/粘A、鍬A	13 75YR4/6	利根	ローム大D・中・小B・粘A/粘A、鍬A
2 75YR2/1	黒	ローム大・粘D'、黒色土粒A/粘A、鍬A	14 75YR3/2	黒黒	ローム中・小・粘C、黒色土粒B/粘A、鍬B
3 75YR3/4	豊根	ローム大・C、粘A、黒色土粒C/粘A、鍬A	15 75YR2/2	黒黒	ローム中・小・粘C、黒色土粒A/粘A、鍬B
4 75YR3/1	黒黒	ローム中・小・C、粘B/粘A、鍬A	16 75YR3/3	豊根	ローム中・B・C・粘B、黒色土粒B/粘A、鍬A
5 75YR4/3	黒	ローム大・中・C・粘B・粘A、鍬A	17 75YR3/2	黒黒	ローム中・小D・粘C、黒色土粒A/粘A、鍬A
6 75YR2/2	黒黒	ローム中・D・粘C、黑色土粒A/粘A、鍬B	18 75YR2/3	豊根	ローム中・D・小・粘C、黑色土粒B/粘A、鍬A
7 75YR4/6	黒	ローム中・D・粘C、黑色土粒B/粘A、鍬B	19 75YR2/3	豊根	ローム中・B・小・粘C、黑色土粒C/粘A、鍬B
8 75YR2/3	豊根	ローム中・C・粘B、黑色土粒B/粘A、鍬B	20 75YR4/6	利根	ローム大B・中・小C・粘A/粘A、鍬A
9 75YR2/2	黒黒	ローム中・D・粘C、黑色土粒A/粘A、鍬B	21 75YR2/2	黒黒	ロームC、黒色土粒A・粘A、鍬A
10 75YR4/4	豊根	ローム中・C・粘B、黑色土粒C/粘A、鍬B	22 75YR4/6	利根	ローム中・小・粘A/粘A、鍬A
11 75YR4/4	黒	ローム大D・中・小B・粘A/粘A、鍬A	23 75YR2/2	黒黒	ローム粘C、黒色土粒A/粘A、鍬A
12 75YR3/4	豊根	ローム中C・小・B・粘A、黑色土粒C/粘A、鍬B	24 75YR2/1	黒	ローム粘D'、黒色土粒A、鹿港土C/粘A、鍬B



第20図 第2号地下式坑・出土遺物実測図

規模と形状 北部が調査区外に延びている。軸長は 2.60m で、主軸方向は N - 60° - W である。

豊坑 主室の北西際に位置し、径 0.9m の半円形である。深さ 70cm で壁は外傾して立ち上がっている。

主室 奥行 2.30m、横幅 2.00m の円形である。深さ 160cm で、壁はほぼ直立している。底面は平坦で、豊坑から中央部がやや踏み固められている。

覆土 24 層に分層できる。第 11 ~ 22 層はロームブロックを多量に含むことから天井部の崩落と考えられる。

遺物出土状況 土師器片 33 点（壺 3、高杯 1、甕 29）、縄文土器深鉢片 1 点。1、2 は覆土中層から出土している。いずれも埋め戻されたときに混入したものと考えられる。

所見 時期は、第 1・2 号方形豊穴遺構との重複関係から、室町時代と考えられる。

第 11 表 第 2 号地下式坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	高杯	—	(60)	—	瓦石・石英・青母	にぶい緑	普通	脚部片 外面縦稜のへき剝り 内面ヘラナダ	覆土中層	5% PL 9
2	土師器	壺	—	(73)	—	瓦石・石英・角閃石	にぶい 黄澄	普通	体部片 内面横筋のナナ後、縦稜のナダ 外面 横筋のヘラミガキ 下端へき剝り	覆土中層	10% PL 9

第 3 号地下式坑（第 21 図 PL 4）

位置 調査区西部 A 1 j6 区、標高 12m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 4 号地下式坑を掘り込んでいる。第 3 号掘立柱建物跡と重複するが、重複関係は不明である。

規模と形状 軸長は 2.50m で、主軸方向は N - 100° - W である。

豊坑 主室の南西際に位置し、径 0.90m の円形である。深さ 170cm で、壁は直立している。第 4 号地下式坑の豊坑を利用している。

主室 奥行 1.90m、横幅 1.70m の円形である。深さ 160cm で、壁は内傾している。主室上部に空洞を確認した。底面は若干の凸凹がみられる。

覆土 6 層に分層できる。6 層の天井の崩落後、2 ~ 5 層は自然堆積と考えられる。

所見 時期は、形態から室町時代と考えられる。

第 4 号地下式坑（第 21 図 PL 4）

位置 調査区西部 A 1 j6 区、標高 12m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 3 号地下式坑に掘り込まれている。第 3 号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。

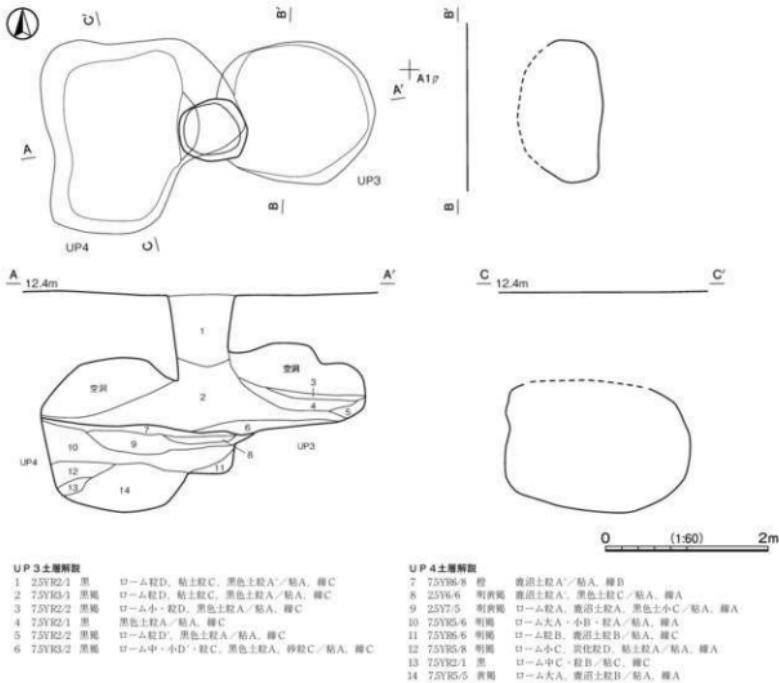
規模と形状 軸長は 2.50m で、主軸方向は N - 80° - E である。

豊坑 主室の東際に位置し、径 0.9m の円形である。深さ 220cm で壁は直立する。豊坑は第 3 号地下式坑と共に通している。

主室 奥行 1.70m、横幅 2.20m の長方形である。深さ 270cm で、壁は内傾している。主室上部に空洞を確認した。豊坑より一段下に構築され、底面は皿状になっている。

覆土 8 層に分層できる。第 12 ~ 14 層はロームブロックを含むことから天井の一部が崩落したものと考えられる。第 7 ~ 11 層は第 3 号地下式坑を掘削した土を埋めて、床を作り使用したと考えられる。

所見 時期は、重複関係や形態から室町時代と考えられる。



第21図 第3・4号地下式坑穴測図

第12表 室町時代地下式坑穴一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	内部施設		覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸(m)	高さ(cm)		壁坑(cm)	溝さ(cm)				
1	B2e7	N - 30° - W	円形	270 × 220	110	平坦	60 × 30	60	崩落	馬糞	室町	本跡→HT 1・2 SK 3
2	B2e6	N - 60° - W	楕円形	260 × 200	160	平坦	90 × 90	70	崩落	土器器	室町	本跡→HT 1・2
3	A1j6	N - 100° - W	円形	250 × 170	160	平坦	90 × 90	170	自然	陶器、粘土塊、 瓦石	室町	UP 4 → 本跡
4	A1j6	N - 80° - E	方形	250 × 220	270	平坦	90 × 90	230	人為	土師質土器 鐵貨	室町	本跡→UP 3

(4) 火葬施設

第1号火葬施設（第22図 PL 4）

位置 調査区中央部 B 3g1 区、標高15mほどの平坦部に位置している。

規模と形状 T字状を呈し、主軸方向はN - 10° - Eである。燃焼部は、奥行き 0.90m、幅 1.30m、深さ 30cmで、底面は皿状である。通気溝は、上幅 0.76m、下幅 0.58m、深さ 20cmほどのU字状をしており、先端部は平坦で緩やかに傾斜して、燃焼部に至る。

覆土 8層に分層できる。焼土粒子・炭化物を多く含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 燃焼部中央を中心に骨片や骨粉が、焼土粒子や炭化物とともに出土している。

所見 時期は、過去の調査例及び遺構の形状から15～16世紀と推測されるが、時期決定の根拠となる遺物が出土していないため明確でない。



第22図 第1号火葬施設実測図

第2号火葬施設 (第23図 PL 4)

位置 調査区西部 B 1b7 区、標高 12m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南側が調査区外に延びている。T字状を呈していると推定でき。主軸方向は N - 15° - E である。燃焼部は、奥行き 0.60m、幅 0.80m しか確認できなかった。深さは 35cm で、底面は皿状である。通気溝は、上幅 0.25m、下幅 0.16m で、深さ 25cm の U 字状と推測される。先端部はほぼ平坦で燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。

覆土 7層に分層できる。焼土粒子・炭化物を多く含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 5・7層で骨粉が出土している。

所見 時期は、過去の調査例及び遺構の形状から15～16世紀と推測されるが、時期決定の根拠となる遺物が出土していないため明確でない。



第23図 第2号火葬施設実測図

第3号火葬施設 (第24図 PL 4)

位置 調査区西部 A 1j5 区、標高 12m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南側が調査区外に延びているため、確認できた長さは東西軸 0.9m、南北軸 0.4m で円形または楕円形と推定され、深さは 25cm である。長軸方向は N - 50° - W である。壁は外傾して立ち上がっている。底面に凸凹が確認される。

覆土 4層に分層できる。焼土粒子・炭化物を多く含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 第3層から骨粉が出土している。

所見 時期は、第1・2号火葬施設と同様と推測されるが、特定することはできない。



第24図 第3号火葬施設実測図

第13表 室町時代火葬施設一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		深さ(cm)	床面	壁面	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸	短軸							
1	B3g1	N - 10° - E	T字形	1.70	× 1.30	30	凸凹	外傾	人為	骨片・骨粉	室町	
2	B1b7	N - 15° - E	[T字形]	1.10	× (0.80)	35	凸凹	外傾	人為	骨粉	室町	
3	A1j5	N - 50° - W	[円形]	(0.90)	× (0.40)	25	凸凹	外傾	人為	骨粉	室町	

(5) 溝跡

第2号溝跡 (第25・26図 第14表 PL 5・9)

位置 調査区中央部 A 2j1 ~ B 2b4 区、標高 12m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第4号方形窓穴構造を掘り込み、第20号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南東部が第20号土坑に掘り込まれており、全長 12.52m しか確認できなかった。上幅 60 ~ 80cm、下幅 20 ~ 40cm、深さは 30 ~ 40cm である。B 2b4 区から北西方向 (N - 60° - W) に直線的に延びている。断面形は U 字形である。

覆土 4層に分層できる。含有物から自然堆積と考えられる。

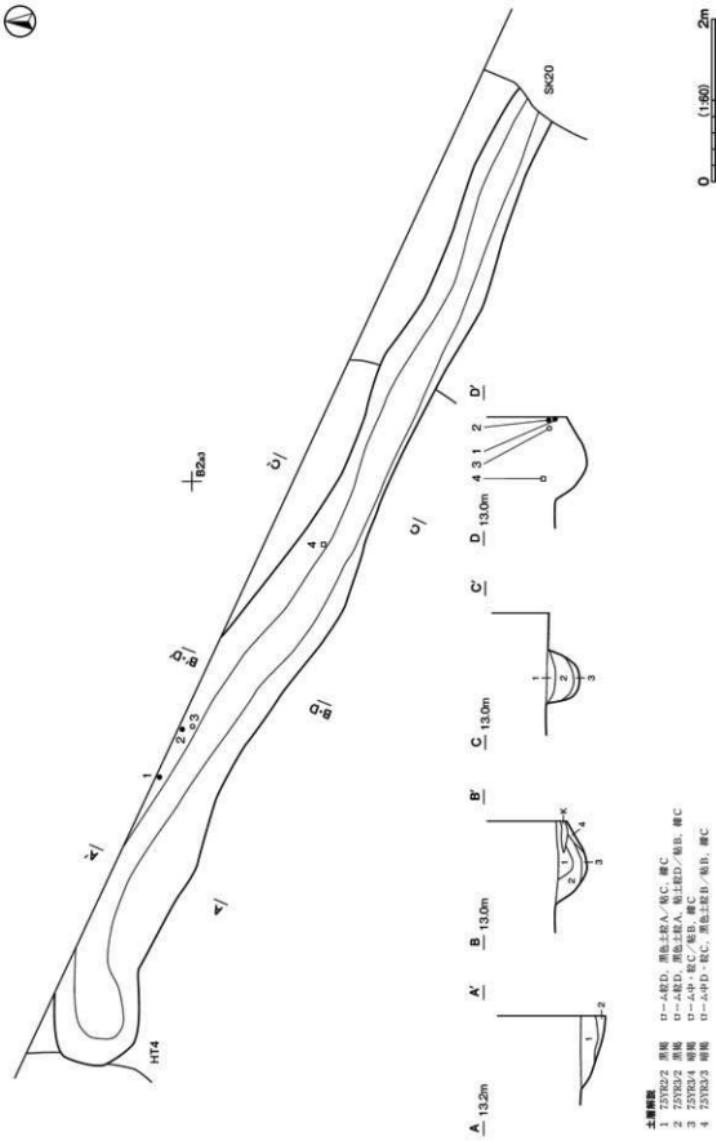
遺物出土状況 土師質土器片 2 点 (皿、内耳鍋)、陶器片 1 点 (壺)、土製品 1 点 (管状土錐)、軽石 2 点の他、混入した縄文土器片 1 点、土師器 3 点 (壺 1、壺 2 点) も出土している。1 ~ 3 は北西部の覆土上層、4 は中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土遺物から 15 世紀代と考えられる。

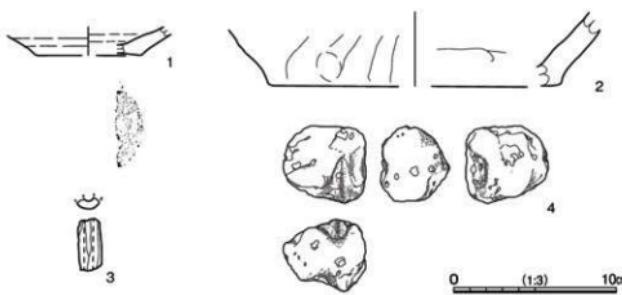
第14表 第2号溝跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	施成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	小皿	—	(1.7)	[6.2]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクナテ底	底部回転糸切り	覆土上層 5% PL. 9
2	陶器	壺	—	(4.5)	[18.0]	長石・石英	灰褐色	普通	全体内外面に広い赤褐色の施釉	内面擦り痕	覆土上層 5% PL. 9 常滑窯
3	管状土器	—	(1.5)	0.6	(3.2)	(3.3)	長石・石英・雲母・角閃石	灰褐色	指顎ナデ	章孔一部欠損	覆土上層 PL. 9
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	—	—	特徴	出土位置	備考
4	軽石	51	46	42	22	軽石細灰岩	中央部結束痕	—	—	覆土上層	PL. 9

Ⓐ



第25図 第2号溝跡実測図



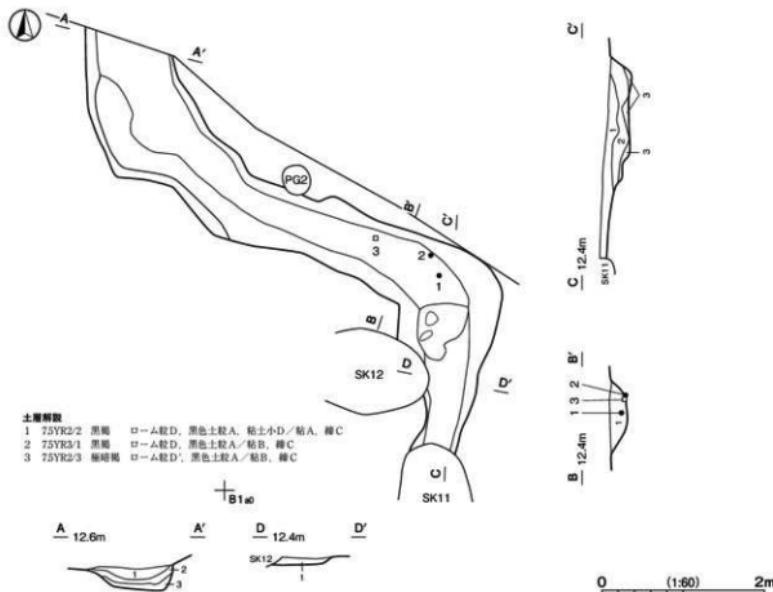
第26図 第2号溝跡出土遺物実測図

第3号溝跡 (第27・28図 第15表 PL 5・6・10)

位置 調査区西部 A 19 ~ A 1j0 区、標高12m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2号掘立柱建物跡を掘り込み、第11・12号土坑、第2号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 北側が調査区外に延びて、南部を第11・12号土坑に掘り込まれており、全長 6.52m しか確認できなかった。上幅 80 ~ 110cm、下幅 30 ~ 70cm、深さは 10 ~ 30cm である。A 1j0 区から北西方向 (N -



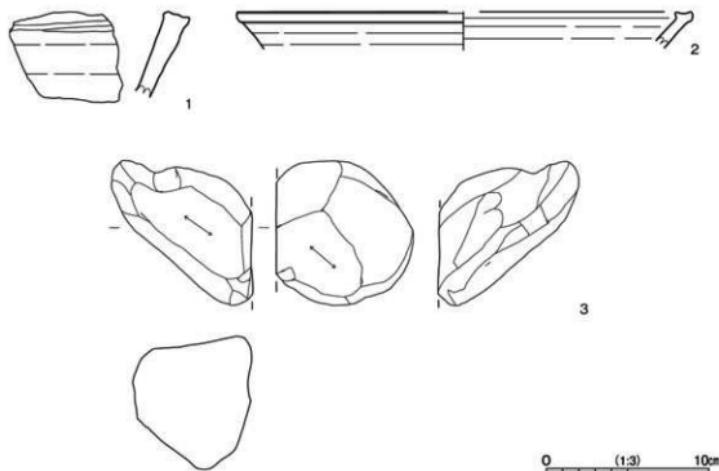
第27図 第3号溝跡実測図

65° - W) に延び、A 1g5 区から北方向に屈曲し、調査区外に至る。断面形は逆台形を呈している。

覆土 3 層に分層できる。含有物から自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片 1 点 (鉢), 陶器片 1 点 (鉢), 石器 1 点 (砥石) の他、混入した土師器片 3 点 (甕) も出土している。1・2 は南東部の覆土下層、3 は北西部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から室町時代と考えられる。



第 28 図 第 3 号溝跡出土遺物実測図

第 15 表 第 3 号溝跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	鉢	—	(5.5)	—	長石・石英・細理	に赤い 赤橙	普通	体部片 ロクロ成形	覆土下層	5% PL10 在地系
2	陶器	鉢	[27.7]	(2.3)	—	長石・石英	暗褐	口縁部片	ロクロ成形	覆土下層	5% PL10 在地系
3	砥石	砥石	8.8	8.5	8.4	砂岩	褐色	2 面		覆土下層	PL10

第 4 号溝跡 (第 29 図 第 16 表 PL 6・10)

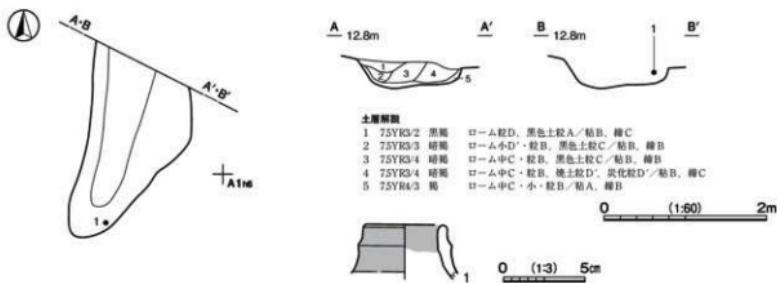
位置 調査区西部 A 1g5 ~ A 1h5 区。標高 12m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北部が調査区外に延びており、全長 220m しか確認できなかった。上幅 120cm、下幅 50cm、深さ 0 ~ 30cm である。A 1h5 区から北方向 (N - 11° - E) に直線状に延び、調査区外に至る。断面形は逆台形を呈している。

覆土 5 層に分層できる。ロームブロック等が含まれることから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 陶器片1点(壺)が出土している。1は南部の底面から出土している。

所見 時期は、出土遺物から15世紀後葉と考えられる。



第29図 第4号溝跡・出土遺物実測図

第16表 第4号溝跡出土遺物一覧

番号	種別	型種	口径	厚さ	底径	始土	色調	釉調	特徴	出土位置	備考
1	陶器	短頭壺	[4.6]	(3.3)	—	長石	灰黄	灰オリーブ	口縁部片 ロクロ成形	底面	5% PL10 古窯口部

第17表 室町時代溝跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
2	A2ij ~ B2i4	N - 60° - W	直線	(12.52)	60 ~ 80	20 ~ 40	30 ~ 40	U字形	外傾	自然	土師質土器、土製品	HT 4 → 本跡 → SK20
3	A1i9 ~ A1j0	N - 65° - W	屈曲	(6.52)	80 ~ 110	30 ~ 70	10 ~ 30	逆台形	外傾	自然	土師質土器、陶器	SB 2 → 本跡 → SK11-12 PG 2
4	A1g5 ~ A1h5	N - 11° - E	直線	(2.20)	0 ~ 120	0 ~ 50	0 ~ 30	逆台形	外傾	自然	陶器	

(6) 柱穴列

第1号柱穴列 (第30図)

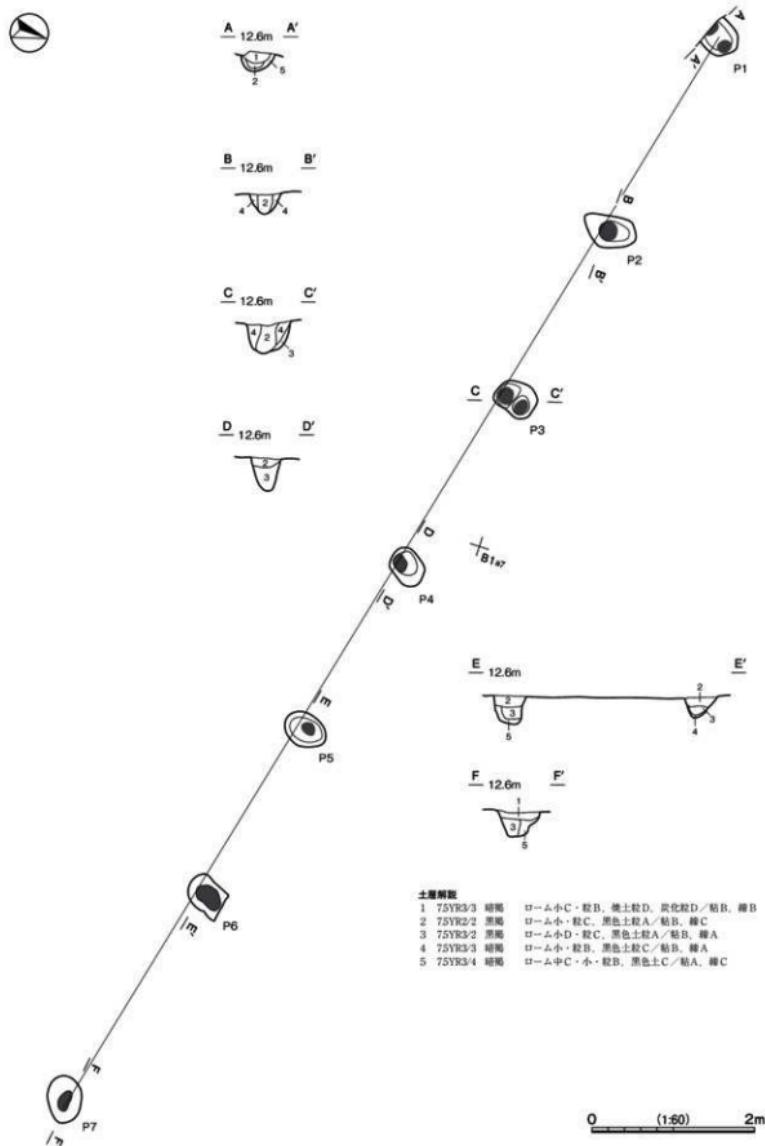
位置 調査区西部 A 1j5 ~ B 1a9 区、標高 12m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3号掘立柱建物跡・第2号柱穴列と重複している。

規模と構造 東西方向 15.52m の間に並ぶ柱穴7か所を確認した。配列方向は N - 75° - W である。柱間寸法は P 1 - P 2 間が 2.68m (9尺), P 2 - P 3 間が 2.40m (8尺), P 3 - P 4 間が 2.40m (8尺), P 4 - P 5 間が 2.40m (8尺), P 5 - P 6 間が 2.40m (8尺), P 6 - P 7 間が 3.02m (10尺) である。全ての柱穴の底面で柱の当たりを確認した。

柱穴 7か所。平面形は円形または楕円形で、長径 45 ~ 60cm、短径 35 ~ 40cm である。深さ 30 ~ 60cm で掘方の壁は直立または外傾している。第4 ~ 5層は掘方への埋土で、第1 ~ 3層は柱抜き取り後の覆土である。

所見 時期は、第3号掘立柱建物跡との重複関係は不明であるが室町時代と考えられる。



第30図 第1号柱穴列実測図

第2号柱穴列（第31図）

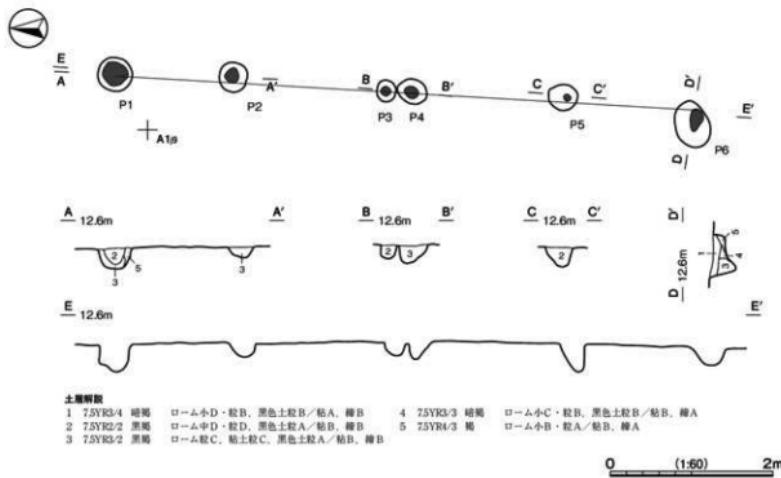
位置 調査区西部 A 1a9 ~ B 1a9 区、標高 12m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号柱穴列と重複している。

規模と構造 南北方向 7.20m の間に並ぶ柱穴 6 か所を確認した。配列方向は N - 4° - E である。柱間寸法は P 1 - P 2 間が 1.48m (5 尺), P 2 - P 3 間が 1.80m (6 尺), P 3 - P 4 間が 0.32m (1 尺), P 4 - P 5 間が 1.82m (6 尺), P 5 - P 6 間が 1.58m (5 尺) である。全ての柱穴の底面で柱の当たりを確認した。

柱穴 6 か所。平面形は円形または梢円形で、長径 30 ~ 50cm、短径 20 ~ 40cm である。深さ 20 ~ 30cm で掘方の壁は直立または外傾している。第4・5層は掘方への埋土で、第1~3層は柱抜き取り後の覆土と考えられる。

所見 P 1 ~ P 3 と P 4 ~ P 6 は別の柱穴列か、あるいは P 3 から P 4 への建替えが行われたかは不明である。時期は、第1号柱穴列との重複関係は不明であるが室町時代と考えられる。



第31図 第2号柱穴列実測図

第18表 室町時代柱穴列一覧

番号	位置	主軸方向	長さ (m)	柱間 (m)	規格				主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)	
					柱穴数	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)		
1	A1a5 ~ B1a9	N - 7° - W	(15.52)	2.40 ~ 3.02	7	円形 梢円形	45 ~ 60	35 ~ 40	30 ~ 40		
2	A1a9 ~ B1a9	N - 4° - E	(7.20)	0.32 ~ 1.82	6	円形 梢円形	30 ~ 50	20 ~ 40	20 ~ 30		

3 江戸時代の遺構と遺物

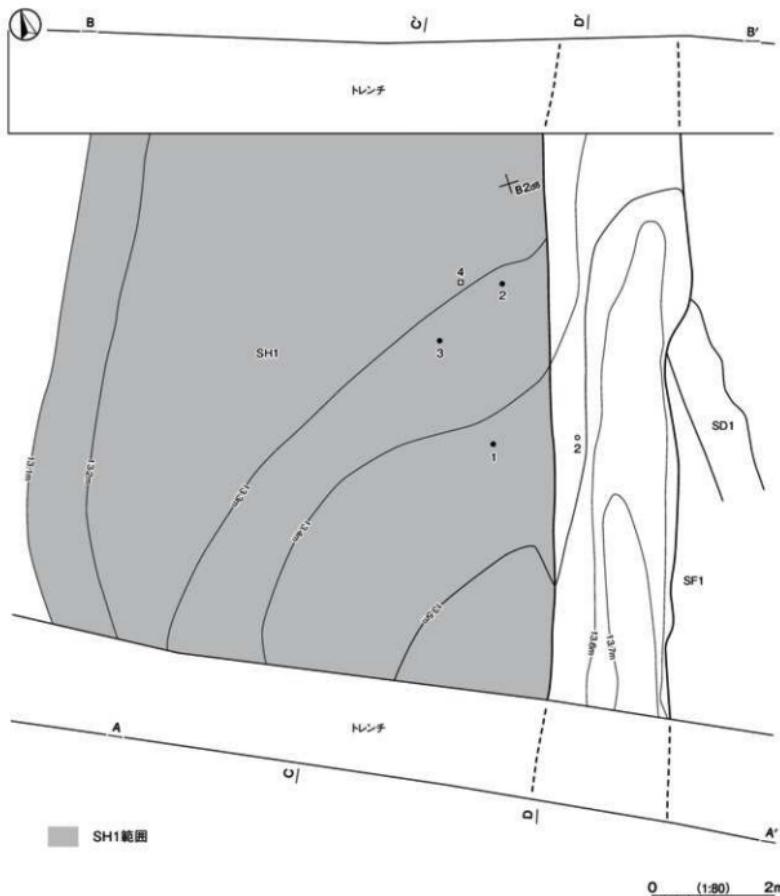
当時代の遺構は、道路跡 1 条、整地遺構 1 か所、土坑 1 基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 道路跡

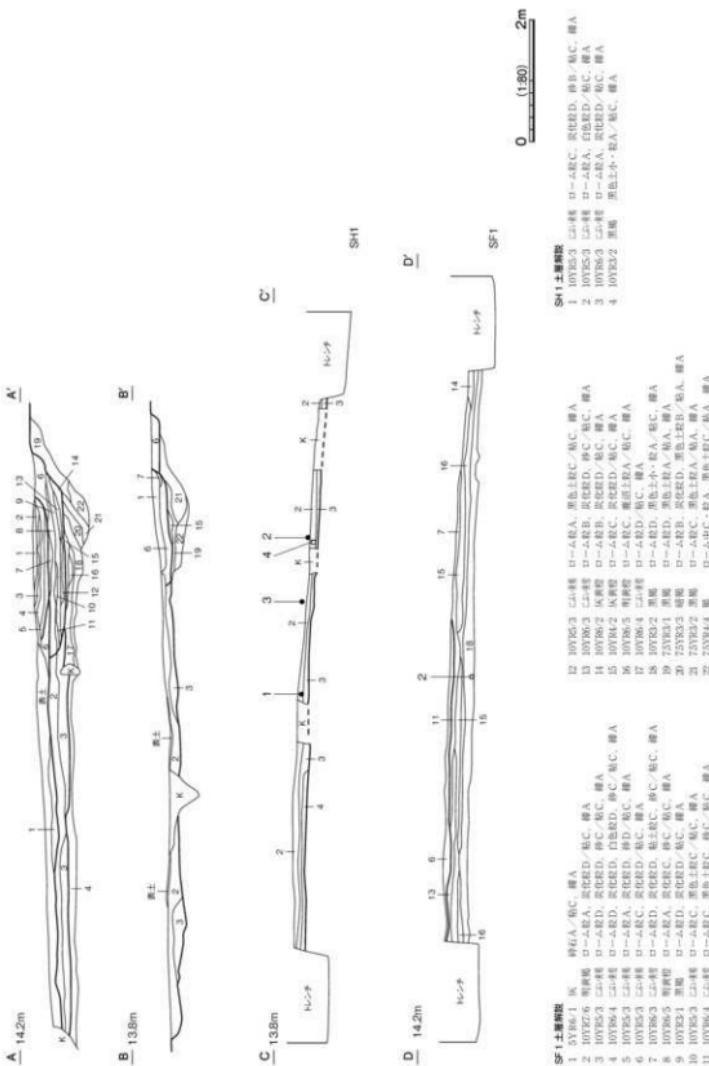
第1号道路跡 (第32～34図 第19表 PL 6・10)

位置 調査区中央部 B 2c7～B 2f7 区、標高12mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 上層の道路跡が第1号整地面を掘り込み、下層の道路跡も整地層を掘り込んでいる。



第32図 第1号道路跡・第1号整地面実測図(1)



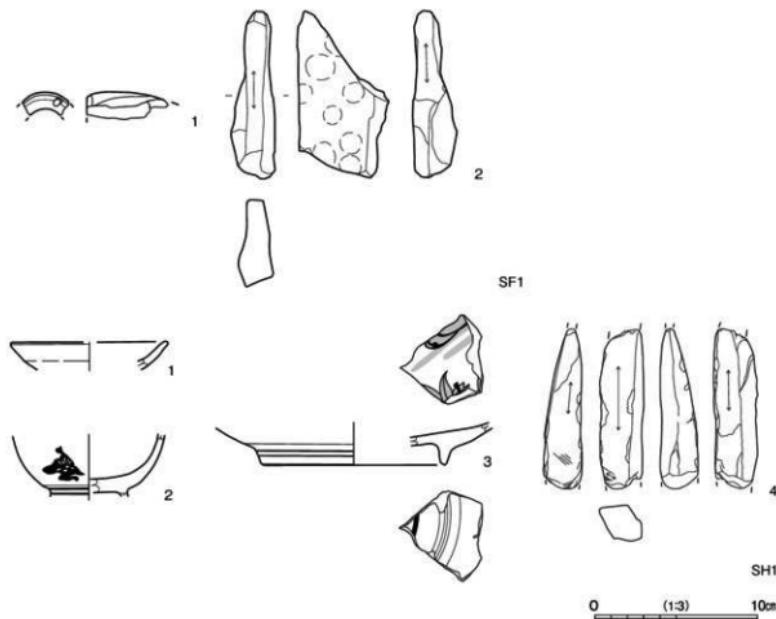
第33図 第1号道路跡・第1号整地面実測図(2)

規模と構造 B 217 区から北方向 (N - 5° - E) へ直線状に延びている。確認した長さは 1250m、幅 190 ~ 290m、深さ 60cm である。断面は皿状を呈している。北から南へ僅かな上り坂になっている。

土層 22 層に分層できる。人為的に補修し、整形されている。6 層下で整地面を構築後、第 1 ~ 5 層は近代から現代まで利用されている。第 7 層は補修跡と考える。第 8 ~ 14 層は江戸時代に利用されていたと考えられる。第 15・16 層は補修跡と考えられる。第 17 層 ~ 22 層は掘方である。

遺物出土状況 土師質土器片 1 点 (鍋)、陶器片 2 点 (碗、壺)、磁器片 1 点 (碗)、瓦質土器 1 点 (土瓶) の他、混入したと考えられる土師器片 5 点 (壺)、須恵器片 3 点 (壺) も出土している。1 は覆土中から出土している。2 は中央部の堀方内から出土している。常滑産窯を紙石に転用している。

所見 時期は、重複関係や出土遺物から上層は近代から現代まで利用されて、下層は江戸時代に利用されていたと考えられる。



第34図 第1号道路跡・第1号整地面出土遺物実測図

第19表 第1号道路跡出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	材質	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	瓦質土器	(50)	(28)	(1.7)	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	注口部分 ロクロナデ	覆土中	5% PL10
2	紙石	102	56	27	107.0	陶器	紙面2面 常滑産窯の転用		堀方内	PL10

(2) 整地遺構

第1号整地遺構 (第32～34図 第20表 PL6・7・10)

位置 調査区中央部B2c6～B2f7区、標高12mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号道路跡に掘り込まれている。

規模と構造 東西幅9.00mで、確認できた南北幅12.30mで、盛土の深さ20～30cmである。長軸方向はN-20°-Eである。確認できた範囲で整地面は平坦である。

土層 4層に分層できる。人為的に補修されている。

遺物出土状況 土師質土器片1点(皿)、磁器片2点(碗、皿)、石器1点(砥石)の他、混入した縄文土器片1点、土師器片1点(甕)も出土している。1は中央部の覆土下層、2・4は北部の覆土上層、3は中央部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土遺物から江戸時代と考えられ、性格は付近に存在する天満宮に伴う広場と推測される。

第20表 第1号整地面出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	仕法の特徴	出土位置	備考
1	土師質 土器	小皿	(9.4)	(1.7)	—	長石・石英・葉 母・黒色粒子	棕	普通	口縁部から体部外面ロクロナデ	覆土下層	5% PL10
2	磁器	碗	—	(4.0)	—	長石・黒色粒子	明緑灰	透明	底部凹 高台削り出し 内外面釉 草木文	覆土上層	10% PL10 肥前赤
3	磁器	大皿	—	(2.5)	[11.0]	長石	明緑灰	透明	底部凹 高台削り出し 内外面釉 草木文	覆土中層	10% PL10 肥前赤
4	砥石	—	9.8	2.7	2.7	83.0	砂岩	砥面3面	—	覆土上層	PL10

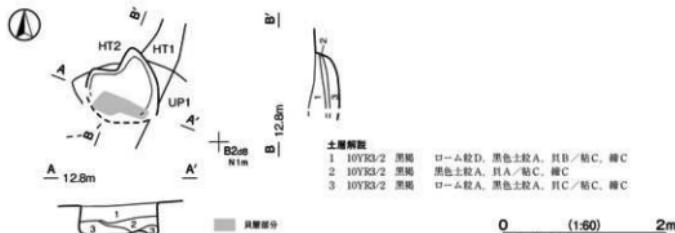
(3) 土坑

第3号土坑 (第35図 PL7)

位置 調査区中央部B2c7区、標高12mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1・2号方形堅穴遺構、第1号地下式坑を掘り込んでいる。第1号整地面との新旧関係はトレンドを掘ってしまい不明である。

規模と形状 確認できた規模は、径0.95mの不整形で、長軸方向はN-20°-Eである。深さは40cmで、



第35図 第3号土坑実測図

壁は直立している。

覆土 3層に分層できる。貝や黒色土を多く含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 シジミ (17,286g), タニシ (815g), カキ (9g)。中層から多量のシジミが出土し、下層から多量のタニシが出土した。

所見 時期は、出土遺物が貝であり、限定することはできないが、江戸時代と考えられる。

4 その他の遺構と遺物

今回の調査で時期や性格が明確にできなかった。土坑43基の内、第5・11・12・14・15・22・35号土坑は粘土を貼って構築されていることから、文章で記載し、それ以外の土坑については実測図及び一覧表で記載する。その他、溝跡2条、ピット群2か所を確認した。

(1) 土坑

第5号土坑 (第36図 PL 4)

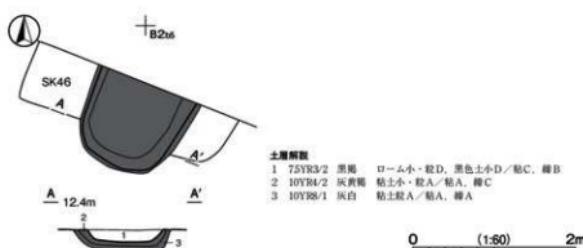
位置 調査区中央部B-2b5区、標高12mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第4号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北部が調査区外に延びているため、南北径1.20m、東西径1.20mで、平面形は楕円形と推測される。深さ10cmである。南北径方向はN-10°-Eである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。第1層は若干のロームブロックが含まれることから人為堆積と考えられる。第2・3層は白色粘土を貼り付けたものである。

所見 本跡は、掘方掘削後、白色粘土を貼り付けた水溜として利用された可能性がある。時期は、伴う遺物がないが、室町時代の遺構が密集するエリアに位置しており、それぞれの遺構と同時期に構築された可能性が考えられるが、明確でない。



第36図 第5号土坑実測図

第11号土坑 (第37図 PL 5)

位置 調査区中央部A-1j0～B-1a0区、標高12mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2号掘立柱建物跡、第3号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.70m、短径1.00mの楕円形で、深さ30cmである。長径方向はN-5°-Eである。底面

は凸凹があり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。第1～5層は粘土粒子やロームブロックが含まれていることから人為堆積と考えられる。第6層は灰白色粘土を貼り付けたものである。

所見 本跡は、掘方掘削後、粘土を貼り付け水溜として利用されていた可能性がある。時期は、伴う遺物がないため明確でない。



第37図 第11号土坑実測図

第12号土坑（第38図 PL 5）

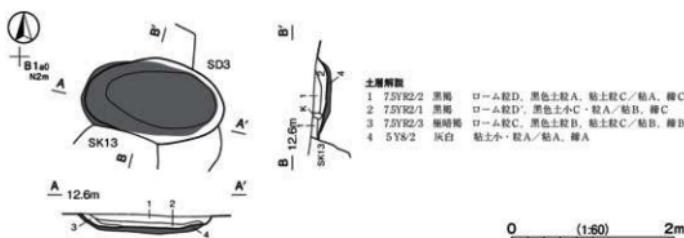
位置 調査区中央部 A 1j0 区、標高 12m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3号溝を掘り込み、第13号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.70m、短径 0.95m の楕円形で、深さ 25cm である。長径方向は N - 80° - W である。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。第1～3層は含有物から自然堆積と考えられる。第4層は灰白色粘土を貼り付けたものである。

所見 本跡は、掘方掘削後、粘土を貼り付け水溜として利用されていた可能性がある。時期は、伴う遺物がないため明確でない。



第38図 第12号土坑実測図

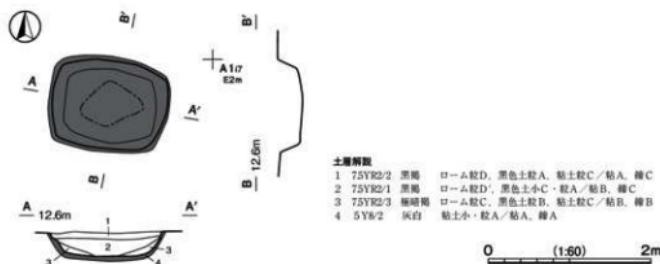
第14号土坑（第39図 PL 5）

位置 調査区中央部 A 1 i7 区、標高 12m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 150m、短軸 1.05m の長方形で、深さ 30cm である。長軸方向は N - 80° - W である。底部は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。第1～3層は含有物から自然堆積と考えられる。第4層は灰白色粘土を貼り付けたものである。

所見 本跡は、掘方掘削後、粘土を貼り付け水溜として利用されていた可能性がある。時期は、伴う遺物がないため明確でない。



第39図 第14号土坑実測図

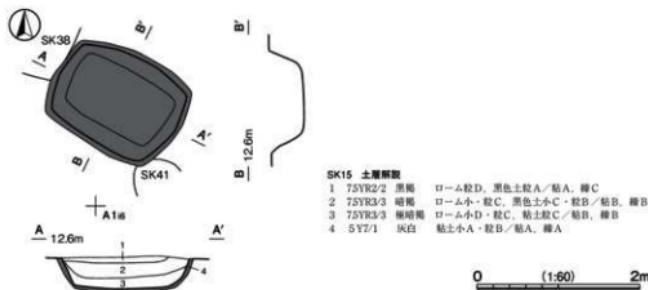
第15号土坑（第40図 PL 5）

位置 調査区中央部 A 1 i5 ~ A 1 i6 区、標高 12m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第38・41号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 1.70m、短軸 1.25m の長方形で、深さ 46cm である。長軸方向は N - 60° - W である。底部は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。第1～3層は自然堆積と考えられる。第4層は灰白色粘土を貼り付けたものである。



第40図 第15号土坑実測図

所見 本跡は、掘方掘削後、灰白色粘土を貼り付け水溜として利用されていた可能性がある。時期は、伴う遺物がないため明確でない。

第 22 号土坑（第 41 図 PL 5）

位置 調査区中央部 A 1h6 区。標高 12m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 21 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 底面のみを確認する。長径 1.50m、短径 1.10m の楕円形である。長径方向は N - 5° - E である。底面は平坦で、壁は不明である。

覆土 2 層に分層できる。第 1・2 層は白色粘土を張り付けたものである。

所見 本跡は、掘方掘削後、白色粘土を貼り付けてある。時期は、伴う遺物がないが、室町時代の遺構と密集したエリアにあり、それぞれの遺構と同時に構築された可能性が考えられるが明確でない。



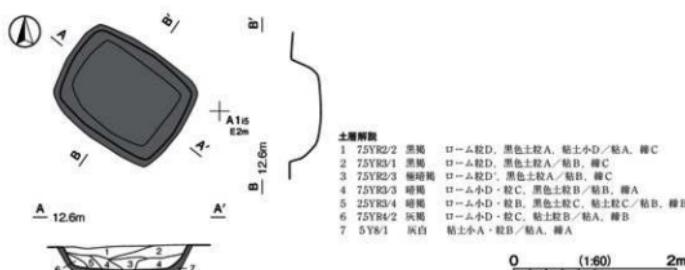
第 41 図 第 22 号土坑実測図

第 35 号土坑（第 42 図 PL 5）

位置 調査区中央部 A 1h5 ~ A 1h6 区。標高 12m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 1.70m、短軸 1.30m の長方形で、深さ 30cm である。長軸方向は N - 50° - W である。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 7 層に分層できる。第 1 ~ 6 層は粘土ブロックが混入していることから人為堆積と考えられる。第 7 層は灰白色粘土を貼り付けたものである。



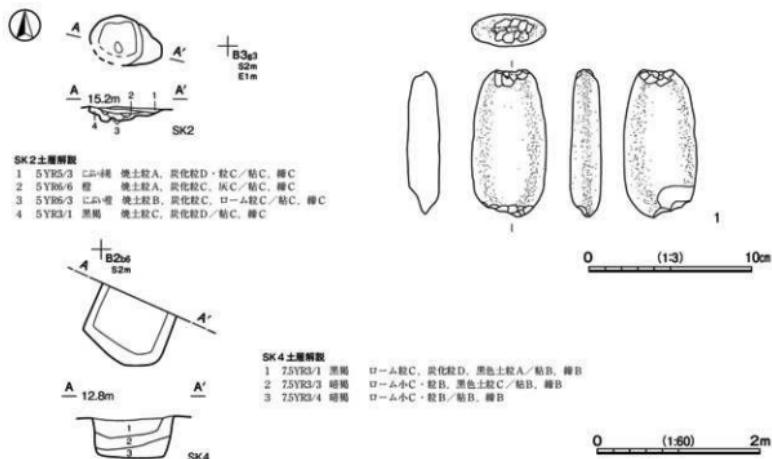
第 42 図 第 35 号土坑実測図

所見 本跡は、掘方掘削後、灰白色粘土を貼り付け水溜として利用されていた可能性がある。時期は、伴う遺物がないが、室町時代の遺構と密集したエリアに位置しており、それぞれの遺構と同時に構築された可能性が考えられるが明確でない。

第21表 時期不明土坑（粘土貼土坑）一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		底面	側面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸(m)	堆高(cm)					
5	B2h5	N - 10° - E	[椭円形]	1.20 × 1.20	10	平坦	外傾	人為		SK46 → 本跡
11	A1j0 ~ B1a0	N - 5° - W	椭円形	1.70 × 1.00	30	凸凹	外傾	人為		SB 2 · SD 3 → 本跡
12	A1j0	N - 80° - W	椭円形	1.70 × 0.95	25	平坦	外傾	自然		SD 3 → 本跡 → SK13
14	A1i7	N - 80° - W	長方形	1.50 × 1.05	30	平坦	外傾	自然		
15	A1i5 ~ A1i6	N - 60° - W	長方形	1.70 × 1.25	46	平坦	外傾	自然		SK38 · 41 → 本跡
22	A1b6	N - 5° - E	椭円形	1.50 × 1.10		平坦	外傾	人為		本跡 → SK21
35	A1h5 ~ A1h6	N - 50° - W	長方形	1.70 × 1.30	30	平坦	外傾	人為		

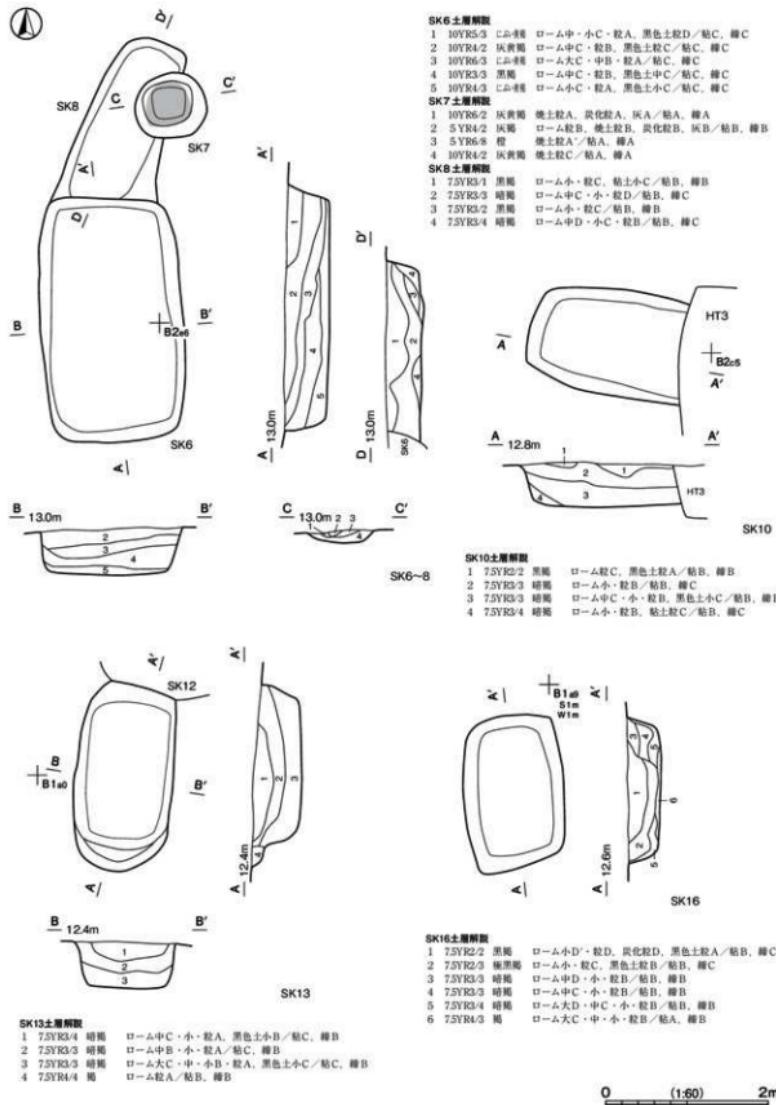
その他、土坑36基については、実測図（第43～47図）、表（第23表）及び図版（PL 7）を掲載する。なお、第2号土坑については、出土遺物1点の実測図を加えた。



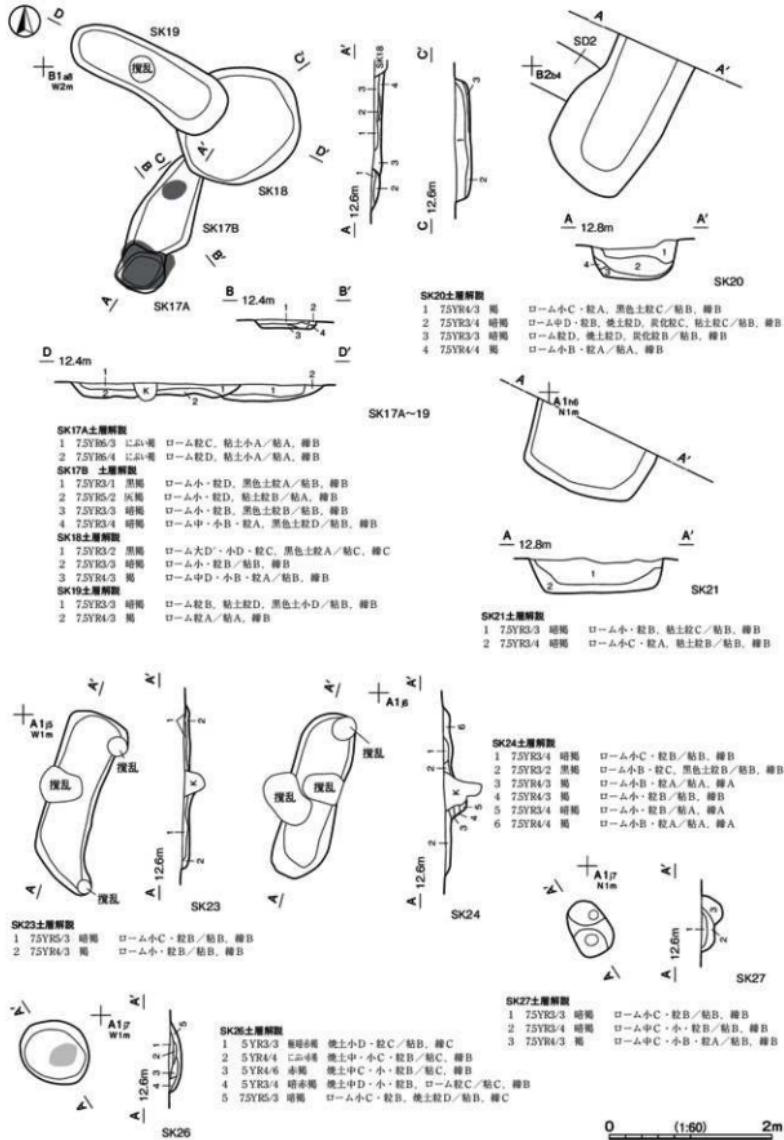
第43図 時期不明土坑・出土遺物実測図

第22表 第2号土坑出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
1	石錘	90	55	19	117.0	流紋岩	上下調整痕	覆土中	PL10

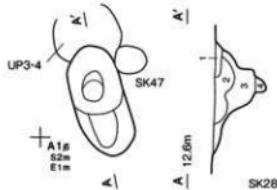


第44図 時期不明土坑実測図(1)



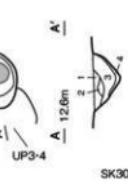
第45図 時期不明土坑実測図(2)

Ⓐ



SK28土層解説

- 1 7SYR3/2 黒褐色 ローム小・粘C／粘B, 緩B
- 2 7SYR4/3 黄褐色 ローム中・小・粘A／粘B, 緩C
- 3 7SYR3/4 單褐色 ロームD・小・粘A・粘A, 緩C
- 4 7SYR4/4 黄褐色 ローム小・粘A／粘B, 緩B



SK30土層解説

- 1 7SYR3/3 黄褐色 ローム粘C, 粘土粘C／粘B, 緩B
- 2 7SYR4/8 黄褐色 粘土粘A／粘C, 緩B
- 3 7SYR3/4 單褐色 ローム小C・粘B／粘B, 緩B
- 4 7SYR4/4 黄褐色 ローム小B・粘A／粘A, 緩B



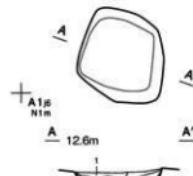
SK31土層解説

- 1 7SYR3/2 黄褐色 ローム中D・小C・粘B, 黑色土小C／粘B, 緩A
- 2 7SYR3/2 黑褐色 ローム中・小・粘A／粘B, 緩B
- 3 7SYR2/3 單褐色 ローム小・粘C, 淡化粘D／粘B, 緩A
- 4 7SYR4/4 黄褐色 ローム中・小B・粘A／粘A, 緩B



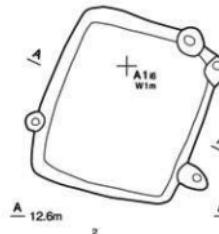
SK32土層解説

- 1 7SYR4/4 黄褐色 ローム小B・粘A／粘A, 緩A
- 2 7SYR3/2 黑褐色 ローム小D・粘C／粘B, 緩B
- 3 7SYR3/3 單褐色 ローム小・粘C, 黑色土粘C／粘B, 緩B
- 4 7SYR3/4 單褐色 ローム小・粘B／粘B, 緩B
- 5 7SYR3/2 黑褐色 ローム粘B, 淡化粘C／粘B, 緩C
- 6 7SYR4/4 黄褐色 ローム小B・粘A／粘B, 緩B



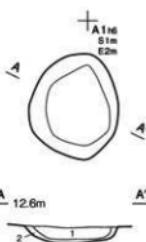
SK33 土層解説

- 1 7SYR3/3 單褐色 ローム小D・粘C, 淡化土小D・粘C／粘B, 緩B
- 2 7SYR3/4 單褐色 ローム小C・粘A／粘B, 緩B
- 3 7SYR3/3 單褐色 ローム中D・小D・粘A, 黑色土小C／粘B, 緩B
- 4 7SYR5/3 黄褐色 ローム中・小B・粘A／粘B, 緩B



SK34土層解説

- 1 7SYR2/2 黑褐色 ローム小D・粘B, 粘土粘C／粘B, 緩B
- 2 7SYR2/3 單褐色 ローム小C・粘B／粘B, 緩B
- 3 7SYR2/4 單褐色 ローム小C・粘A, 黑色土粘C／粘B, 緩C
- 4 7SYR4/3 黄褐色 ローム小B・粘A／粘B, 緩B



SK38土層解説

- 1 7SYR2/2 黑褐色 ローム小・粘C, 黑色土粘C／粘B, 緩B
- 2 7SYR2/3 單褐色 ローム小C・粘A, 黑色土粘C／粘B, 緩B
- 3 7SYR3/4 單褐色 ローム小C・粘A, 粘土粘C／粘B, 緩B
- 4 7SYR2/2 黑褐色 ローム中D・粘C／粘B, 緩B

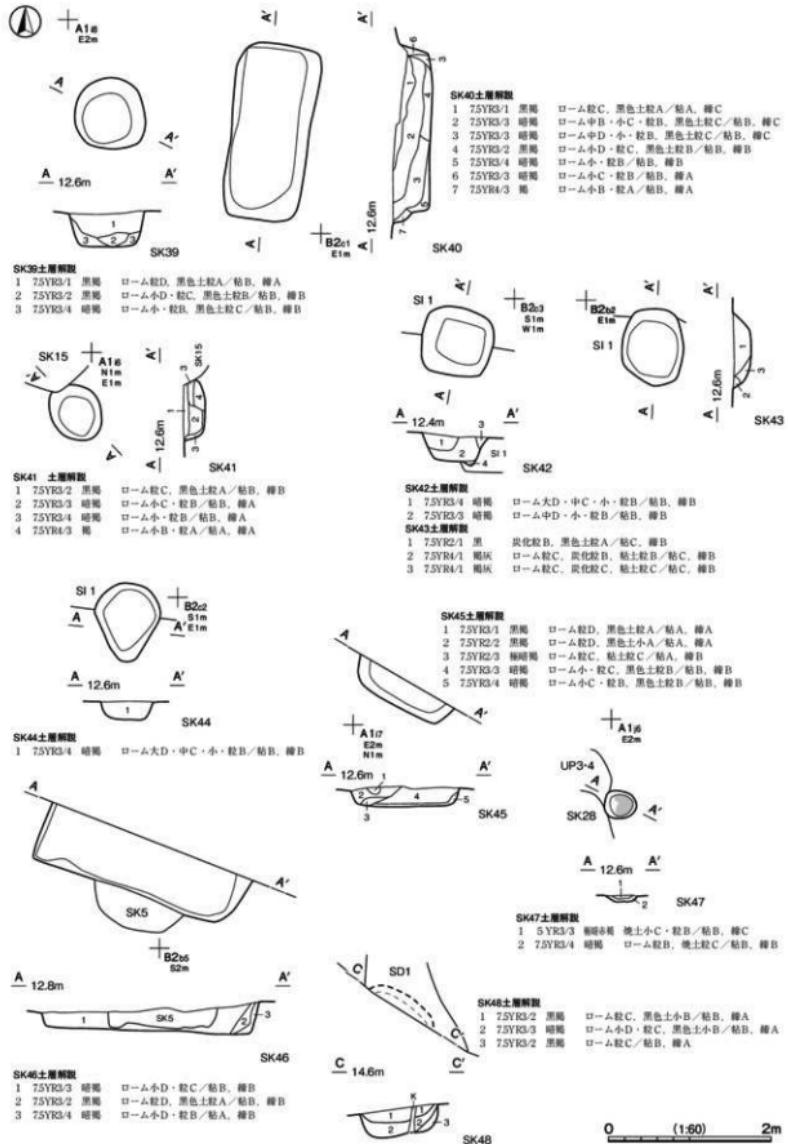
SK38

SK37土層解説

- 1 7SYR3/3 單褐色 ローム小C・粘B／粘B, 緩B
- 2 7SYR4/6 黄褐色 ローム小・粘A, 黑色土粘C／粘B, 緩B

0 (1:60) 2m

第46図 時期不明土坑実測図(3)



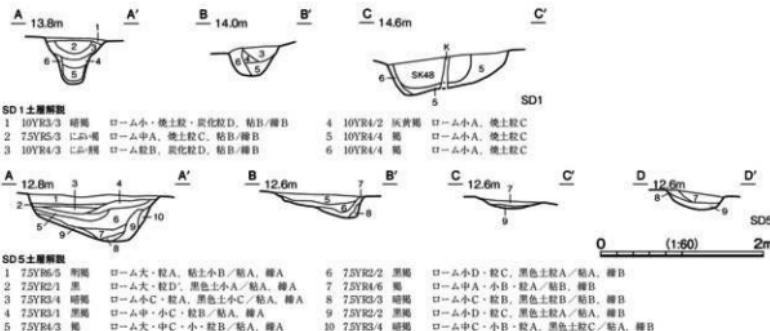
第 47 図 時期不明土坑実測図 (4)

第23表 時期不明土坑一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		底面	側面	覆土	主な出土物	備考 重複関係(古→新)
				長軸	短軸(m)					
2	B3g2	N - 75° - W	椭円形	0.90	× 0.60	28	凸凹	緩やか	人為	石錐
4	B2g6	N - 70° - W	【椭円形】	1.05	× (0.80)	50	平坦	直立	自然	
6	B2d5 - B2e5	N - 10° - W	長方形	3.08	× 1.64	55	平坦	直立	人為	土師器 SK 8 → 本跡
7	B2d5 - B2e6	N - 90° - W	円形	0.90	× 0.80	40	圓状	外縁	人為	SK 8 → 本跡
8	B2d5 - B2e6	N - 35° - E	長方形	(2.00)	× 1.05	48	平坦	外縁	人為	本跡 → SK 6 - 7
10	B2b4	N - 75° - W	【長方形】	(1.95)	× 1.80	50	平坦	外縁	人為	本跡 → HT 3
13	A1j0 - B1a0	N - 10° - E	椭円形	2.20	× 1.10	60	平坦	直立	人為	SK12 → 本跡
16	B2a8	N - 10° - W	長方形	1.85	× 1.25	42	平坦	外縁	人為	
17A	B2a7	N - 40° - W	不整形	0.80	× 0.70	12	圓状	外縁	人為	SK17B → 本跡
17B	B1a7 - B1a6	N - 35° - E	椭円形	(1.10)	× 0.72	16	圓状	外縁	人為	本跡 → SK17A - 18
18	B1a7 - B1a8	N - 45° - W	円形	1.65	× 1.45	20	圓状	外縁	人為	
19	B1a6 - B1a7	N - 65° - W	椭円形	2.20	× 0.70	20	平坦	外縁	自然	SK18 → 本跡
20	B2b4	N - 30° - E	椭円形	(2.00)	× 1.00	50	平坦	外縁	人為	SD 2 → 本跡
21	A1b6	N - 70° - W	【長方形】	1.60	× (0.85)	40	平坦	外縁	自然	
23	A1j5	N - 15° - E	椭円形	2.00	× 0.70	8	平坦	外縁	自然	
24	A1j5	N - 20° - E	椭円形	2.10	× 0.70	12	平坦	外縁	人為	
26	A1j6	N - 35° - W	円形	0.90	× 0.80	16	圓状	外縁	人為	
27	A1j6	N - 35° - W	椭円形	0.68	× 0.50	24	凸凹	外縁	人為	
28	A1j6	N - 10° - W	椭円形	0.90	× 0.60	70	凸凹	外縁	人為	UP 3・4 → 本跡
30	A1j6	N - 80° - W	不整形	0.80	× 0.70	30	凸凹	外縁	人為	UP 3・4 → 本跡
31	A1j6	N - 60° - W	椭円形	1.05	× 0.60	40	凸凹	外縁	人為	
32	A1j6	N - 80° - E	椭円形	1.10	× 0.80	40	凸凹	外縁	人為	
33	A1j6	N - 65° - W	不整形	1.10	× 1.10	20	圓状	外縁	人為	
34	A1j5	N - 20° - E	正方形	2.25	× 1.95	24	平坦	外縁	人為	
37	A1j5	N - 5° - W	円形	1.30	× 1.20	20	平坦	外縁	自然	
38	A1j5	N - 20° - E	長方形	1.30	× 0.92	26	平坦	外縁	人為	本跡 → SK15
39	A1j7	N - 7° - W	円形	0.90	× 0.88	42	平坦	外縁	人為	
40	B1c0	N - 10° - E	長方形	2.16	× 1.04	46	平坦	外縁	人為	
41	A1j5	N - 50° - W	椭円形	(0.70)	× 0.64	28	圓状	外縁	人為	本跡 → SK15
42	B2k3	N - 85° - W	正方形	0.86	× 0.80	24	平坦	外縁	自然	SI 1 → 本跡
43	B2k2	N - 5° - E	椭円形	0.96	× 0.78	20	平坦	外縁	人為	SI 1 → 本跡
44	B2k2	N - 5° - E	椭円形	1.04	× 0.80	30	平坦	外縁	人為	SI 1 → 本跡
45	A1j6	N - 60° - W	【椭円形】	1.20	× (0.34)	22	平坦	外縁	人為	
46	B2b5	N - 75° - W	【椭円形】	2.32	× (0.68)	20 - 40	平坦	外縁	自然	本跡 → SK 5
47	A1j6	N - 70° - E	円形	0.38	× 0.34	10	圓状	緩やか	人為	UP 3・4 → 本跡
48	B2g8	N - 60° - W	【円形】	1.26	× (0.30)	62	平坦	外縁	人為	

(2) 溝跡

溝跡2条は、実測図(第3・48図)、表(第24表)及び図版(PL 7)を掲載する。



第48図 第1・5号溝跡実測図

第24表 時期不明溝跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)					
1	B28-B2g8	N-10°-W	直線	(1008)	60-80	20-40	30-40	U字形	外傾	自然	
5	A1g4-A1j4	N-25°-E	屈曲	(1102)	50-150	20-50	10-60	逆U形	外傾	自然	

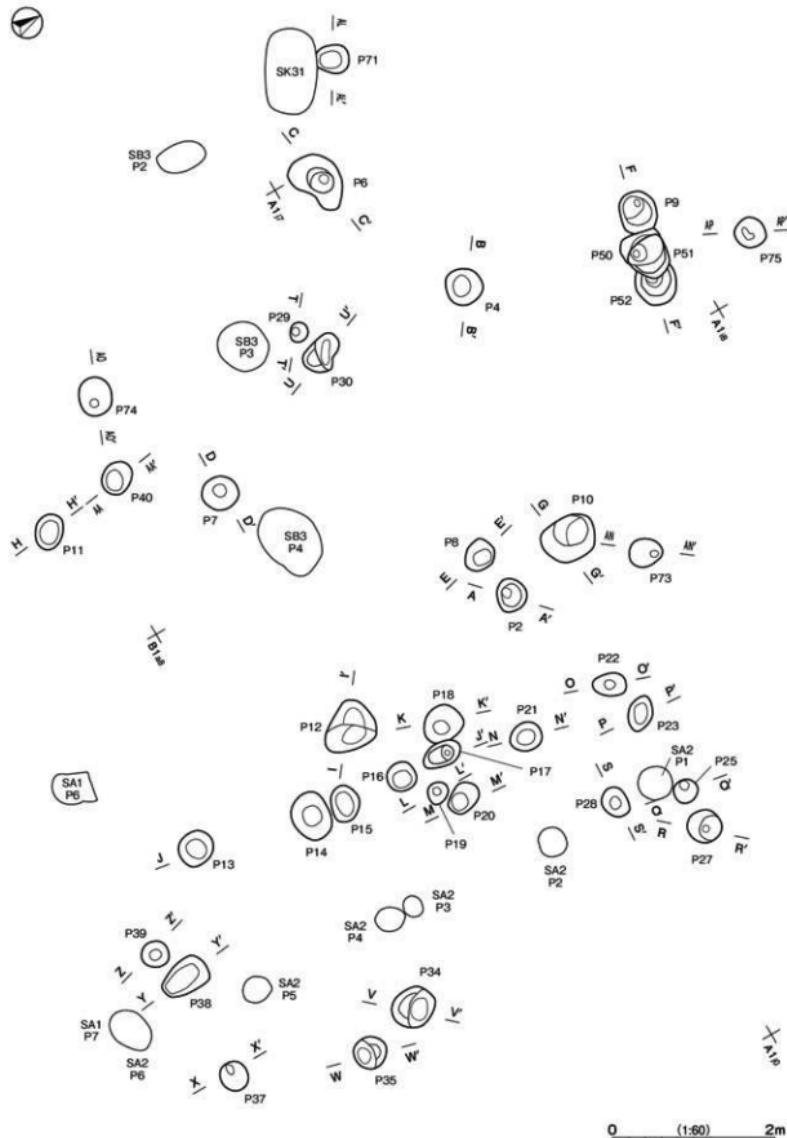
(3) ピット群

2か所確認した。平面図は第49~52図及び図版(PL 7)に、規模は一覧表(第25・26表)で掲載する。

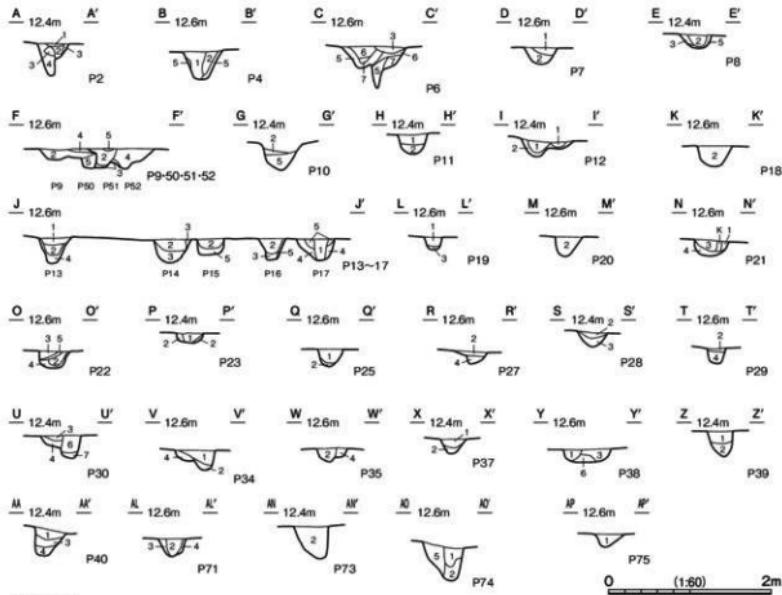
第25表 第1号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
2	A1j8	不整円形	40	36	39
4	A1j7	円形	47	44	33
6	A1j7	不整椭円形	73	56	51
7	A1j7	円形	44	42	21
8	A1j8	不整椭円形	40	33	15
9	A1j7	椭円形	49	45	11
10	A1j8	不整椭円形	67	52	31
11	B1a7	椭円形	43	33	22
12	A1j8	不整椭円形	68	57	20
13	B1a8	円形	43	40	28
14	A1j8	椭円形	58	46	29
15	A1j8	不整椭円形	44	34	19
16	A1j8	円形	38	37	25
17	A1j8	椭円形	50	28	26
18	A1j8	不整円形	48	43	26
19	A1j8	不整椭円形	30	24	15
20	A1j8	椭円形	43	30	23
21	A1j8	椭円形	38	33	20
22	A1j8	不整椭円形	41	27	19

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
23	A18	不整椭円形	45	29	12
25	A1j9	円形	30	28	22
27	A1j9	円形	42	40	16
28	A1j9	不整椭円形	38	31	16
29	A1j7	椭円形	25	21	17
30	A1j7	不整椭円形	51	38	28
34	A1j9	不整椭円形	54	46	24
35	B1a9	円形	41	39	15
37	B1a9	円形	36	34	18
38	B1a9	長方形	60	39	16
39	B1a9	円形	32	30	31
40	A1j7	椭円形	51	34	33
50	A1j7	【椭円形】	51	(27)	23
51	A1j7	不整円形	50	49	23
52	A1j7	【円形】	50	(32)	25
71	A1j6	【椭円形】	39	33	20
73	A1j8	椭円形	41	35	40
74	A1j7	椭円形	47	40	21
75	A1j7	円形	38	36	16



第49図 第1号ビット群実測図(1)



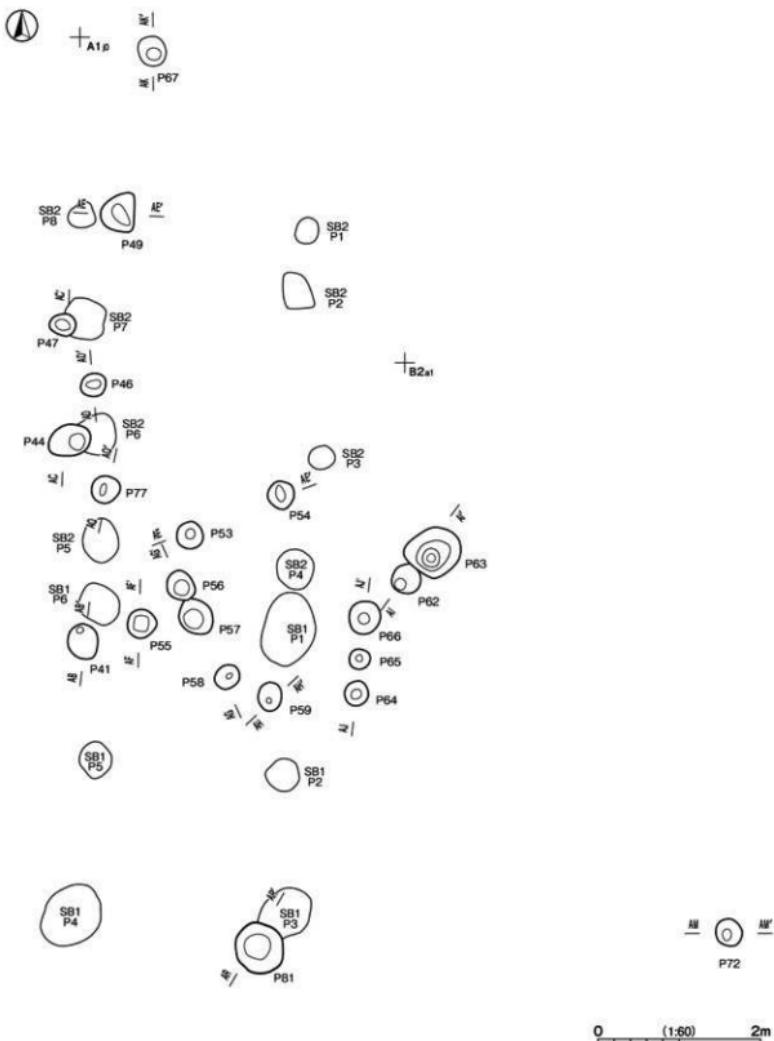
- ピット土層解説
- | | |
|---------------|----------------------|
| 1 7SYR 3/1 黒樹 | ロームD'、黒色土粒A/粘B、縫B |
| 2 7SYR 3/2 黒樹 | ロームD、黒色土粒A/粘B、縫B |
| 3 7SYR 3/3 硬樹 | ロームC・粘B、黒色土粒A/粘A、縫B |
| 4 7SYR 3/4 硬樹 | ローム小B、粘B、黒色土粒A/粘A、縫B |

第50図 第1号ピット群実測図(2)

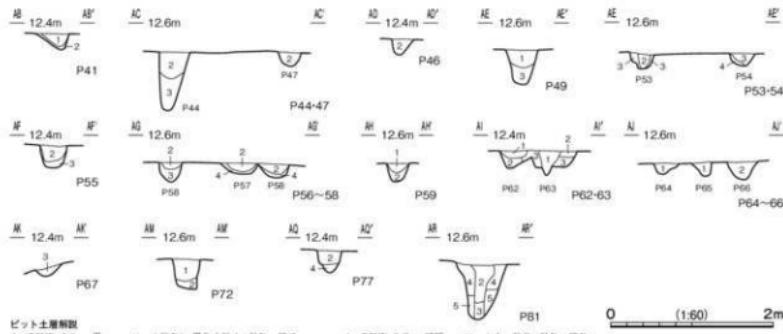
第26表 第2号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
41	B1a0	楕円形	40	36	18
44	B1a0	楕円形	55	40	70
46	B1a0	円形	30	28	18
47	A1j0	楕円形	34	26	15
49	A1j0	不整円形	52	48	42
53	B1a0	円形	34	34	18
54	B1a0	円形	36	35	16
55	B1a0	円形	36	35	28
56	B1a0	円形	38	34	15
57	B1a0	楕円形	45	40	12
58	B1a0	楕円形	32	28	24

番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ
59	B1a0	円形	35	34	22
62	B2a1	円形	35	35	20
63	B2a1	不整楕円形	70	60	30
64	B2a0	円形	32	30	15
65	B1a0	円形	25	25	15
66	B1a0	円形	40	38	22
67	A1j0	楕円形	37	33	12
72	B2a2	円形	32	32	36
77	B2a0	円形	35	35	25
81	B1b0	楕円形	68	35	66



第51図 第2号ビット群実測図 (1)



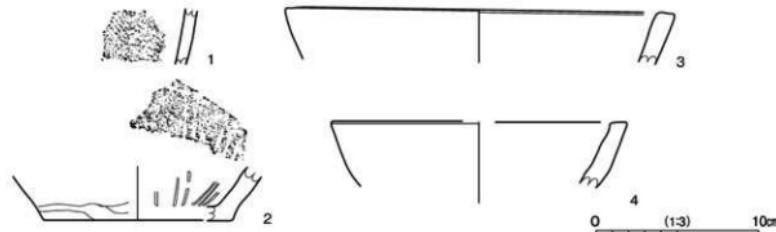
ピット土層解説

- | | | | |
|---------------|----------------------|---------------|-----------------|
| 1 75YR 2/1 黒 | ローム粒D、黒色土粒A／粘B、薄C | 4 75YR 3/3 破片 | ローム小・粒B／粘B、薄B |
| 2 75YR 2/2 黒褐 | ローム粒D、黒色土粒A／粘B、薄C | 5 75YR 4/3 黒 | ローム小・C・粘B／粘B、薄B |
| 3 75YR 3/1 黒褐 | ローム小C・粘B、黒色土粒A／粘B、薄B | | |

第52図 第2号ピット群実測図(2)

5 遺構外出土遺物

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物については、実測図(第53図)、図版(PL10)と一覧(第27表)を掲載する。



第53図 遺構外出土遺物実測図

第27表 遺構外出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	破文 土器	深鉢	—	(3.3)	—	長石・石英・細 纖	にぶい 黄橙	普通	單面繩文 RL	表土	5% PL10 開甌式
2	土師質 土器	搖鉢	—	(3.3)	[11.6]	長石・石英・ス コリア	にぶい 黒	普通	崩日 3本	表土	5% PL10
3	土師質 土器	鍋	[23.6]	(3.2)	—	長石・石英	にぶい 黄橙	普通	口縁部片 ロクロ成形	表土	5% PL10
4	土師質 土器	鉢	[18.0]	(3.9)	—	石英・雲母・赤 色粒子	明赤褐	普通	口縁部片 ロクロナデ	表土	5% PL10

第4節 総括

1はじめに

当遺跡では、今回の調査で古墳時代の堅穴建物跡1棟、室町時代の掘立柱建物跡3棟、方形堅穴造構3基、地下式坑4基、火葬施設3基、土坑（粘土貼）7基、溝跡3条、柱穴列2条、江戸時代の道路跡1条、整地面1か所、土坑1基、時期不明の土坑36基、溝跡2条、ピット群2か所を確認した。そこで、調査した遺構と出土遺物について、若干の考察を加えてまとめとする。

(1) 繩文時代

遺構は確認されなかったが、前期関山式系の繩文土器深鉢片や石錘・凹石が確認されているので、近隣に生活の場があったと推測される。

(2) 古墳時代

7世紀前葉に比定される堅穴建物跡1棟のみを確認した。一辺が5.00m前後の中形建物である⁽¹⁾。覆土中に炭化材や炭化物、焼土粒子が散乱していたことから焼失建物と考えられる。遺物は、土師器壺・甕・瓶・土玉が出土している。

(3) 室町時代

・方形堅穴造構

方形堅穴造構4基を確認した。その中で長軸2.20m、短軸1.60mで小形の第3号方形堅穴造構の床面から焼土痕が検出されている⁽²⁾。検出状況から簡易な竈を使用して焼土化したものと推測される。他の3基からは焼土痕は確認できなかったが、長軸5.00m前後の大型の施設で、硬化面が確認されていることから継続的に利用されていたと考えられる。

・掘立柱建物跡

掘立柱建物跡3棟を確認した。第1号掘立柱建物跡と第2号掘立柱建物跡は、桁行や梁行はほぼ同じ規模であることから簡易な倉庫と考えられる。第3号掘立柱建物跡は、前者より規模は大きいが性格は不明である。

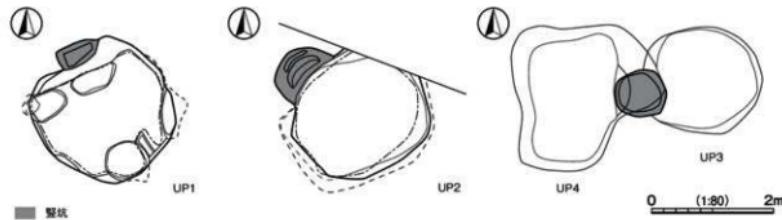
・地下式坑

地下式坑4基を確認した。天井部が残存していたのは第3・4号地下式坑の2基で、他は崩落していた。主室の平面形は奥行き2.00m前後で、横幅2.20m前後の円形または梢円形、長方形とそれぞれ異なる。堅坑は、壁一辺の中央付近に接して垂直に掘られている。遺物は第1号地下式坑の底面から馬齒が出土しているのみである。

地下式坑の性格や用途については古くから議論されており、主なものは葬送施設説。もしくは貯蔵庫説であるが、その機能はどちらかに限定できるものではなく、それ以外の用途も合わせて多岐に渡ると考えられる。

・火葬施設

火葬施設3基を確認した。2基はT字状を呈し、燃焼部に炭化材や焼土粒子を多量に含み、焼土粒子



第54図 天神道B遺跡地下式坑図

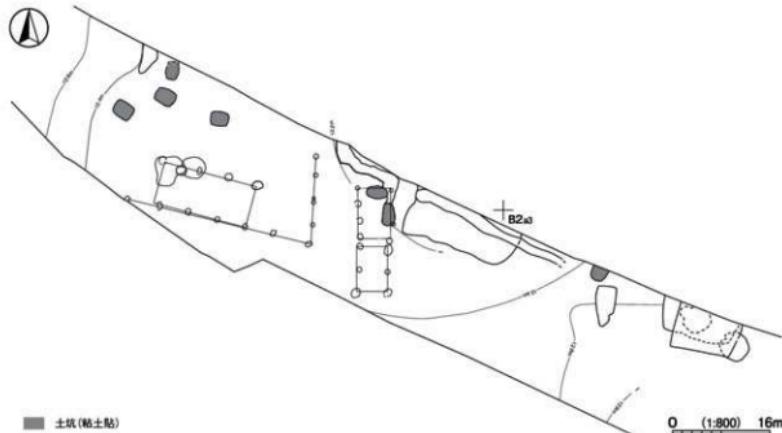
と共に骨片や骨粉を確認できたことから判断した。開口部は緩やかに燃焼部に向かうことから通気溝と考えられる。

・土坑(第5・11・12・14・15・22・35号)

粘土を貼った土坑7基を確認した。平面形は長径が1.70m前後の橢円形と長軸が1.70m前後の長方形の2つに分類できる。確認した粘土の厚さは10~15cmで、掘方掘削後に粘土を貼り付けている。中世の遺跡で粘土貼土坑の検出例は多く、台地上に位置する牛久市の明神遺跡⁽³⁾や東海村の石神城跡⁽⁴⁾などで報告されている遺構に規模や粘土の厚さが類似している。台地上に位置する当遺跡においても、粘土貼土坑が貯水施設としての水溜に使用されていたと考えられる。室町時代の遺構と重複したり、エリア付近に立地しており、それぞれの遺構と同時期に構築された可能性が考えられる。

以上のことから遺構の配置をみると、室町時代に当地は、作業場あるいは墓域として利用されていたと推測することができる。

15世紀後半の古瀬戸産の平碗や短頭甕、北関東産の瓦質土器、北宋銭の「皇宋通宝」が出土しており、当地まで流通していたことがわかった。



第55図 天神道B遺跡土坑(粘土貼)配置図(その他は室町時代の遺構)

(4) 江戸時代以降

道路跡1条を確認した。路面は非常に硬く締まっており、道幅は2.00mで北から南に一直線に延びている。遺跡名の由来となる天満宮に詣出する道で、砂や褐色土で補修・修復が繰り返し行われ、江戸時代から現代まで利用されている。現在の天満宮は、当遺跡から東南東300mの位置に祀られている。

併せて道路沿いに整地面を確認した。規模は東西8.00m、南北12.00mであるが、天満宮に参った地域の人々が何らかの目的で集うために広場として利用されたものと想像する。

また土坑1基を確認した。この土坑の中層から多量のシジミ、下層から多量のタニシが出土した。陶器片等の出土は無かったが、広場に集った人々が食した可能性が考えられる。

道路・広場・土坑の確認から、地域の人々が天満宮を信仰し、継続的に利用されていたと考えられる。

遺物としては、道路跡や整地遺構から18世紀中葉から後葉に比定される肥前系の磁器碗や大皿の破片しか出土しなかった。

2 おわりに

以上、当遺跡における縄文時代から江戸時代までの状況を整理した。調査区が細長く、全容を解明するには至らなかったが、古墳時代及び室町時代から現代における生活の一端を明らかにすることができた。今回の調査成果が、本県並びに当地域における歴史解明の一助となれば幸いである。

注)

(1) 壁穴建物跡の規模は、30m以上を大形、30m未溝～20mを中形、20m未溝を小形とした。

(2) 方形壁穴遺構の規模は、20m以上を大形、20m未溝～10mを中形、10m未溝を小形とした。

(3) 大木拳周ほか「明神遺跡（牛久城跡外郭部・明神塚1号墳）」牛久市文化財報告 第10集 2014年8月

(4) 東海村道路調査会「石神城跡」東海村教育委員会 1992年3月

参考文献

・平石尚和ほか『下大賀遺跡Ⅱ』（下大賀鳥井中道線開発に伴う埋蔵文化財調査報告）那珂市教育委員会 2018年8月

・芳賀友博・菊池直哉『下土師東遺跡—東関東自動車道水戸線建設事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財团文化財調査報告第305集 2008年3月

・野田真直『下大賀遺跡2——一般国道118号道路改築事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』茨城県教育財团文化財調査報告第452集 2021年3月

・旭村史編纂委員会『旭村の歴史 通史編』旭村教育委員会 1998年3月

・中山信名修・栗田寛補訂『新編常陸国誌』宮崎報恩会版 崇書房 1969年11月

・三浦裕介・萩原宏季『大高台遺跡・北久保B遺跡——一般国道高萩線バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財团文化財調査報告第453集 2021年3月

写 真 図 版



調査区遠景（西から）



調査区全景（鉛直）



第1号竪穴建物跡



第1号竪穴建物跡遺物出土状況



第1号掘立柱建物跡



第2号掘立柱建物跡



第3号掘立柱建物跡



第2号掘立柱建物跡P6土層断面



第3号掘立柱建物跡P4土層断面（抜き取り跡）



第1号方形竪穴遺構



第2号方形竖穴遗構



第3号方形竖穴遗構遺物出土状况



第4号方形竖穴遗構第1次硬化面



第4号方形竖穴遗構



第4号方形竖穴遗構遺物出土状况



第1号地下式坑



第1号地下式坑遺物出土状况



第2号地下式坑

PL4



第3号地下式坑



第4号地下式坑



第1号火葬施設土層断面



第1号火葬施設



第2号火葬施設土層断面



第3号火葬施設土層断面



第5号土坑



第5号土坑土層断面



第11号土坑



第12号土坑



第14号土坑



第15号土坑



第22号土坑



第35号土坑



第2号溝跡



第3号溝跡

PL6



第3号溝跡遺物出土状況



第4号溝遺物出土状況



第1号道路跡・第1号整地面確認状況



第1号道路跡土層断面（南面）



第1号道路跡土層断面（北面）



第1号道路跡遺物出土状況



第1号道路跡・第1号整地面土層断面



第1号道路跡・第1号整地面断面土層断面



第1号整地面遺物出土状況



第3号土坑土層断面



第40号土坑



第1号ピット群



第1号溝跡



第5号溝跡



西区完掘



東区完掘



S I 1-1



S I 1-2



S I 1-4



S I 1-3



S I 1-5



S I 1-6



S I 1-6

第1号竖穴建物跡出土遺物



第1号竖穴建物跡、第1～4号方形竖穴遺構、第2号地下式坑、第2号溝跡出土遺物

PL10



第3·4号溝跡，第1号道路跡，第1号整地面，第2·3号土坑，遺構外出土遺物

抄 錄

印 刷 仕 様

編 集 O S Microsoft Windows 10 Pro
編集 Adobe InDesign CC 2017
図版作成 Adobe Illustrator CC 2017
写真調整 Adobe Photoshop CC 2017
Scanning EPSON DS - G20000
使用Font OpenType リュウミンPro L - KL, 太ゴB101 Pro Bold
中ゴシック BBB Pro Medium
写 真 線数 カラー210線以上
印 刷 印刷所へは、Adobe InDesign CC でデータ入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第463集

鉾田市

天 神 道 B 遺 跡

主要地方道大洗友部線バイパス整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和4（2022）年 1月31日 発行

発行 公益財團法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 山三印刷株式会社
〒311-4153 水戸市河和田町4433-33
TEL 029-252-8481